

---

# 角田市学校の適正規模等に関する 基本構想「第3次行動計画構想」に 基づく学校再編・統合の具体化方針

---



令和7年2月

 角田市教育委員会

## 【目次】

1. はじめに	p.1
2. 「第3次行動計画構想」の検討の前倒し	p.2
3. 今後の児童生徒数の推移	p.2
(1) 令和6年4月1日現在の未就学児童数	p.2
(2) 今後の小学校児童数の推移	p.2
(3) 今後の中学校生徒数の推移	p.3
4. 学校施設の老朽化の現状	p.4
(1) 学校施設の劣化状況評価	p.4
(2) 学校施設の長寿命化の方針	p.5
5. 保護者等アンケートの結果	p.6
(1) 保護者等アンケートの趣旨	p.6
(2) 保護者等アンケートの結果	p.6
(3) 保護者等アンケートからの考察	p.10
6. 検討委員会における検討状況及び最終報告	p.11
(1) 検討委員会における検討状況	p.11
(2) 検討委員会における最終報告	p.12
7. 「第3次行動計画構想」に基づく学校再編・統合の具体化方針	p.17
8. 「第3次行動計画構想」の更なる具体化に向けて	p.19

## 【巻末資料】

学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート結果集計報告書	p.21
----------------------------------	------

## 1. はじめに

角田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）では、児童生徒のよりよい教育環境の整備と、教育の質のさらなる充実を図ることを目的として、平成17年9月に「角田市立学校施設整備の将来構想（計画期間：平成18年度～平成34年度）（以下「将来構想」という。）」を策定し、学校施設の耐震補強を実施したほか、学校施設の適正配置・適正規模（以下、「学校再編・統合」という。）を進めるため、平成21年度に西根中学校と北角田中学校、平成23年度に小田小学校と角田小学校を統合しました。

しかしながら、策定から10年以上が経過する中で、人口減少・少子化が加速度的に進行し、策定当時想定した児童生徒数の将来予測と現状に大きな乖離が生じるとともに、昭和40年代後半から昭和50年代にかけて建設された学校施設の老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えることにより、維持管理・改修コストの増大が、財政運営上の課題として問題視されるようになってきました。

このような状況を踏まえ、教育委員会では、次世代を担う子どもたちのための教育環境を整備し、その質的充実を図るためには、学校再編・統合を進めるべきという考えのもと、将来構想を見直し、令和2年1月に「角田市学校の適正規模等に関する基本構想（以下「基本構想」という。）」を策定しました。「第1次行動計画」として、令和3年度には東根小学校と桜小学校、令和4年度には西根小学校と北郷小学校、金津中学校と角田中学校を統合したほか、「第2次行動計画」として、令和5年度には枝野小学校と藤尾小学校を再編し、金津小学校を新設しました。

また、「第3次行動計画構想」においては、小中学校の将来的な姿として、市内の小中学校を3校、中学校を1校まで集約することを示しており、具体の再編構想は、右図のとおりとなっております。

年度 学校名	第1次行動計画 ・令和3年4月1日～ ・令和4年4月1日～	第2次行動計画 令和5年4月1日～	第3次行動計画構想 令和10～15年度
角田小学校			角田小学校 横倉小学校 を統合し 角田小学校
横倉小学校			
枝野小学校		枝野小学校 藤尾小学校 を再編し 金津小学校	
藤尾小学校			
東根小学校	桜小学校と 統合 令和3年4月1日		
桜小学校			桜小学校 北郷小学校 を再編し (仮称)北角田小学校
北郷小学校			
西根小学校	北郷小学校と 統合 令和4年4月1日		
角田中学校			角田中学校 北角田中学校 を統合し 角田中学校 (旧角田女子高跡地 に新設)
金津中学校	角田中学校と 統合 令和4年4月1日		
北角田中学校			

(令和2年1月策定「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」p.20より抜粋)

## 2. 「第3次行動計画構想」の検討の前倒し

基本構想の「第3次行動計画構想」については、「第1次及び第2次行動計画」の実行後、その時点での児童生徒数の現状、学校施設の老朽化の状況、さらには本市の財政状況等を考慮し、計画的かつ弾力的な実行計画となるよう、改めて具体的行動計画を議論すべきものとして、令和7年度に検討を開始することとされておりました。

しかしながら、基本構想策定以後も、急激な人口減少・少子化を背景として、児童生徒数の減少に歯止めがかからないことに加え、改修や建替え等に多額の財源を要する学校の老朽化も同時進行している状況の中で、教育委員会では、児童生徒の教育環境を整え、その質の向上を図るためには、基本構想の「第3次行動計画構想」の具体化に向けた検討の前倒しを行う必要があると考え、令和6年3月18日に、角田市学校適正規模検討委員会設置要綱第3条の規定に基づき、地域代表者、保護者、学校関係者及び学識経験者を構成員とする「角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）」を設置しました。また、同日付けで、検討委員会に対し、同第2条の規定に基づき、「学校の適正規模、適正配置及び通学区に関する基本的な考え方並びにその実現に向けた具体的方策」について検討を依頼することといたしました。

## 3. 今後の児童生徒数の推移

### (1) 令和6年4月1日現在の未就学児童数

令和6年4月1日現在の住民基本台帳による未就学児童数（0歳から5歳）については、次のとおりとなります。0歳児（89人）と5歳児（147人）の児童数を比較すると、5歳児に対する0歳児の減少率が▲39.5%となっており、急激な児童数の減少が見て取れます。

○未就学児童数（令和6年4月1日現在）※（ ）内は入学年度 （単位：人）

年 齢 学校区	0 歳 (R12)	1 歳 (R11)	2 歳 (R10)	3 歳 (R9)	4 歳 (R8)	5 歳 (R7)	計
角田小学校区	45	43	55	63	68	78	352
横倉小学校区	5	6	9	10	11	14	55
金津小学校区	9	9	8	9	12	11	58
桜小学校区	14	30	24	26	26	26	146
北郷小学校区	16	19	20	17	20	18	110
計	89	107	116	125	137	147	721

また、この令和6年4月1日現在の未就学児童数（0歳から5歳）を基に、今後の各小中学校の児童生徒数を推計すると、次の（2）及び（3）のとおりとなります。

### (2) 今後の小学校児童数の推移

○令和6年度～令和12年度までの小学校児童数の推移 (単位：人)

年度 学校	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
角田小	491	481	457	439	408	371	352
横倉小	116	113	98	86	76	67	55
金津小	101	96	89	76	67	61	58
桜小	152	145	150	150	149	159	146
北郷小	138	129	125	122	128	120	110
計	998	964	919	873	828	778	721

【参考】小学校における普通学級数の状況 ※( )内は普通学級数 (単位：人)

区分 時点	過小規模 (複式学級がある)	小規模	適正規模 (全学年が複数学級)	大規模
	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19学級以上
令和6年4月1日	無し	・横倉小(6) ・金津小(6) ・桜小(6) ・北郷小(6)	・角田小(17)	無し
令和12年4月1日 (見込み)	・横倉小(5)	・金津小(6) ・桜小(6) ・北郷小(6)	・角田小(13)	無し

令和6年度から令和12年度までの児童数の推移を減少率で見ると、横倉小学校(▲52.6%)、金津小学校(▲42.6%)の順で児童数が減少する見込みとなっております。

また、令和12年度の横倉小学校において、複式学級(※)が1学級(2学年：6人+3学年：9人=15人)発生し、現在の小規模校(6学級)から過小規模校(5学級)となる可能性があります。

※複式学級：1学年を含む場合は2学年と合わせて8人以内の場合に、2学年以上の場合隣り合う学年と合わせて16人以内となる場合に1学級となります。

(3) 今後の中学校生徒数の推移

○令和6年度～令和18年度までの中学校生徒数の推移 (単位：人)

年度 学校	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
角田中	484	435	421	383	384	357	325	306	287	276	245	212	189
北角中	179	175	158	151	130	132	139	144	143	133	133	136	123
計	663	610	579	534	514	489	464	450	430	409	378	348	312

【参考】中学校における普通学級数の状況 ※( )内は普通学級数 (単位：人)

区 分 時 点	過小規模 (複式学級がある)	小規模	適正規模 (全学年が複数学級)	大規模
	2学級以下	3～5学級	6～18学級	19学級以上
令和6年4月1日	無 し	無 し	・角田中(14) ・ <u>北角田中(6)</u>	無 し
令和18年4月1日 (見込み)	無 し	・ <u>北角田中(5)</u>	・角田中(6)	無 し

令和6年度から令和18年度までの生徒数の推移を減少率で見ると、角田中学校(▲61.0%)、北角田中(▲31.3%)の順で減少する見込みとなっているほか、令和12年度には、両校合わせた全体の生徒数の合計が464人となり、令和6年度の角田中学校の生徒数(484人)よりも下回ることが見込まれております。

また、令和18年度の北角田中学校(123人)においては、1学年が1学級となり、現在の適正規模校(6学級)から小規模校(5学級)となる可能性があります。

#### 4. 学校施設の老朽化の現状

##### (1) 学校施設の劣化状況評価

本市の学校施設については、高度経済成長期の昭和40年代から50年代にかけて当時の木造から鉄筋コンクリート造りとして整備され、その後、平成20年度から平成23年度にかけて大規模改造や耐震補強等を実施したものの、建築から相当の期間が経過していることもあり、著しい老朽化が進行しております。令和7年3月末現在で、角田中学校校舎①(昭和40年8月竣工)が築59年経過と最も古く、次いで北角田中学校屋内運動場(昭和43年2月竣工)が築57年経過、角田中学校校舎②(昭和44年12月竣工)が築55年経過となっております。

本市では、基本構想の具体的な小中学校の再編案等を踏まえ、令和3年度から令和12年度までの10年間の学校施設の計画的な長寿命化対策を推進するため、各学校施設について現地調査等を実施し、劣化状況評価を行った上で、令和3年3月に「角田市学校施設個別施設計画(以下「長寿命化計画」という。)」を策定しました。

長寿命化計画策定時(評価基準年：令和2年)の各学校施設の劣化状況評価については、次ページの表のとおりとなります。

構造躯体以外の健全性評価において、横倉小学校校舎①の「屋根・屋上」「内部仕上」、北郷小学校屋内運動場の「外壁」、角田中学校校舎①の「屋根・屋上」、角田中学校柔剣道場の「電気設備」、北角田中学校屋内運動場の「外壁」「内部仕上」、北角田中学校柔剣道場の「外壁」「内部仕上」「電気設備」「機械設備」が「C」判定となっており、劣化が広範囲にわたり、安全上・機能上の不具合発生の兆しがあり、長寿命化策定時点(令和2年1月)で、10年以内を目安に改修を実施すべきとの評価を受けております。

構造躯体及び構造躯体以外の健全性評価

■ 築50年以上

評価基準年：令和2(2020)年

建物基本情報					構造躯体の健全性評価						構造躯体以外の健全性評価					
施設名	建物名	構造	建築年月	築年数 (R7.3末時点)	耐震安全性			長寿命化改修等の可否			屋根 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100 点満 点)
					耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強	確認 年度	コンク リート 圧縮強 度	長寿命 化改修 等						
角田小	北校舎	RC	S4706	52	旧	済	済	R1	33.9	可能	A	B	B	B	B	77
角田小	南校舎	RC	H0608	30	新	-	-	R1	-	可能	B	A	B	B	B	82
角田小	特別教室棟	RC	H0608	30	新	-	-	R1	-	可能	B	B	A	B	A	87
角田小	屋内運動場	S	S5610	43	旧	済	不要	R1	-	可能	B	B	B	B	B	75
横倉小	校舎①	RC	S4912	50	旧	済	済	R1	15.4	可能	C	B	C	A	A	65
横倉小	校舎②	RC	S5703	43	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	B	B	75
横倉小	屋内運動場	S	H0803	29	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	B	A	78
金津小	校舎	RC	S4403	56	旧	済	済	R1	14.2	可能	-	-	-	-	-	-
金津小	屋内運動場	S	H0303	34	新	-	-	R1	-	可能	-	-	-	-	-	-
桜小	校舎	RC	S5505	44	旧	済	済	R1	34.9	可能	B	B	B	B	B	75
桜小	屋内運動場	S	S5503	45	旧	済	済	R1	-	可能	B	B	B	B	B	75
北郷小	校舎	RC	S6103	39	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	A	B	78
北郷小	屋内運動場	S	S6203	38	新	-	-	R1	-	可能	B	C	B	B	A	68
角田中	校舎①	RC	S4008	59	旧	済	済	R1	13.5	可能	C	B	B	B	B	72
角田中	校舎②	RC	S4412	55	旧	済	済	R1	13.5	可能	B	B	B	B	B	75
角田中	校舎③	RC	S5903	41	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	B	B	75
角田中	屋内運動場	S	S4808	51	旧	済	済	R1	-	可能	B	B	B	B	B	75
角田中	柔剣道場	S	S5903	41	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	C	B	70
北角中	校舎	RC	H2102	16	新	-	-	R1	-	可能	B	B	B	A	A	81
北角中	屋内運動場	S	S4302	57	旧	済	済	R1	-	可能	B	C	C	B	B	52
北角中	柔剣道場	S	S5312	46	旧	済	不要	R1	-	可能	B	C	C	C	C	43

- ※1 建物基本情報の築年数の欄は令和6年11月末現在の築年数とし、築50年以上を■に着色しています。
- ※2 耐震安全性の耐震基準の欄については、昭和56年6月に建築基準法が改正されており、それ以前を「旧(=旧耐震基準)」、それ以後を「新(=新耐震基準)」と表記しております。耐震診断の欄は、診断を行ってあれば「済」、行ってなければ「未」、耐震診断対象外を「-」としています。そのうえで、耐震補強の欄は、耐震補強が行われている場合は「済」、行われてなければ「未」、耐震診断の結果により耐震補強の対象外は「不要」としています。
- ※3 長寿命化改修等の可否の欄については、長寿命化改修等が行えると判断できる施設を「可能」としています。
- ※4 金津小学校については、長寿命化計画策定時(令和3年3月策定)、金津中学校(令和3年度末廃止)だったため、構造躯体の健全性評価については、金津中学校(当時)のものを記載しています。また、構造躯体以外の健全性評価については、令和4年度に、金津中学校を金津小学校化するための大規模改修を行っており、令和7年度に再評価する予定となっていることから、「- (未評価)」としています。

(「長寿命化計画」p.4、p.10及びp.12より抜粋し、一部加筆修正)

(2) 学校施設の長寿命化の方針

長寿命化計画においては、学校施設の長寿命化の方針として、今後も維持・活用し続ける施設については、下表のとおり、原則20年周期で大規模改造又は長寿命化改修を行うこととしております。

用途	大規模改造周期	長寿命化改修周期
学校施設	築20年 築60年	築40年

例えば、建築から相当の期間が経過し、老朽化が進行している角田中学校校舎①(築59年)については平成22年度、北角田中学校屋内運動場(築57年)については

平成20年度に大規模改造を行っており、それから既に14年～16年が経過していることを踏まえると、次の大規模改造等が必要な時期がまもなく迫っており、このまま大規模改造等を行うか、基本構想の「第3次行動計画構想」に示すとおり統合新設とするか、早急に判断しなければならない状況になっております。

## 5. 保護者等アンケートの結果

### (1) 保護者等アンケートの趣旨

検討委員会において、基本構想の「第3次行動計画構想」に示す学校再編・統合案について検討を進めるうえでの基礎資料とするため、下記要領により、保護者等（1,483世帯）を対象とし、アンケートを実施しました。

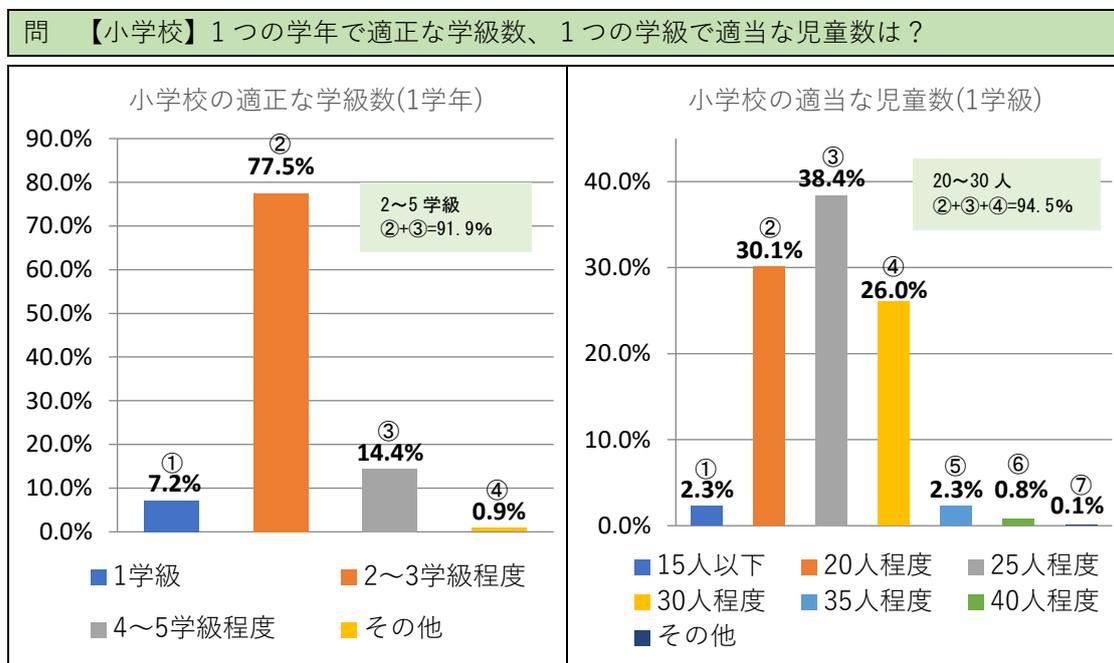
区 分	説 明
対 象 者	令和6年4月1日現在における下記①～③の保護者(世帯)：計1,483世帯 ①：市立小中学校に在籍する児童生徒の保護者(世帯)※区域外含む ②：①以外で角田市に住民票を有する児童生徒の保護者(世帯) ③：未就学児の保護者(世帯)
実施方法	無記名方式とするが、回答者の性別・年代・居住地区名等の属性は記入する。 ・上記①については、学校を通じて配布・回収（Web 回答含む） ・上記②については、郵送にて配布・回収（Web 回答含む） ・上記③については、保育所・児童館等の施設入所者は施設を通じて配布・回収（Web 回答含む）。それ以外は郵送にて配布回収（Web 回答含む）
実施期間	令和6年5月7日～5月31日まで

### (2) 保護者等アンケートの結果

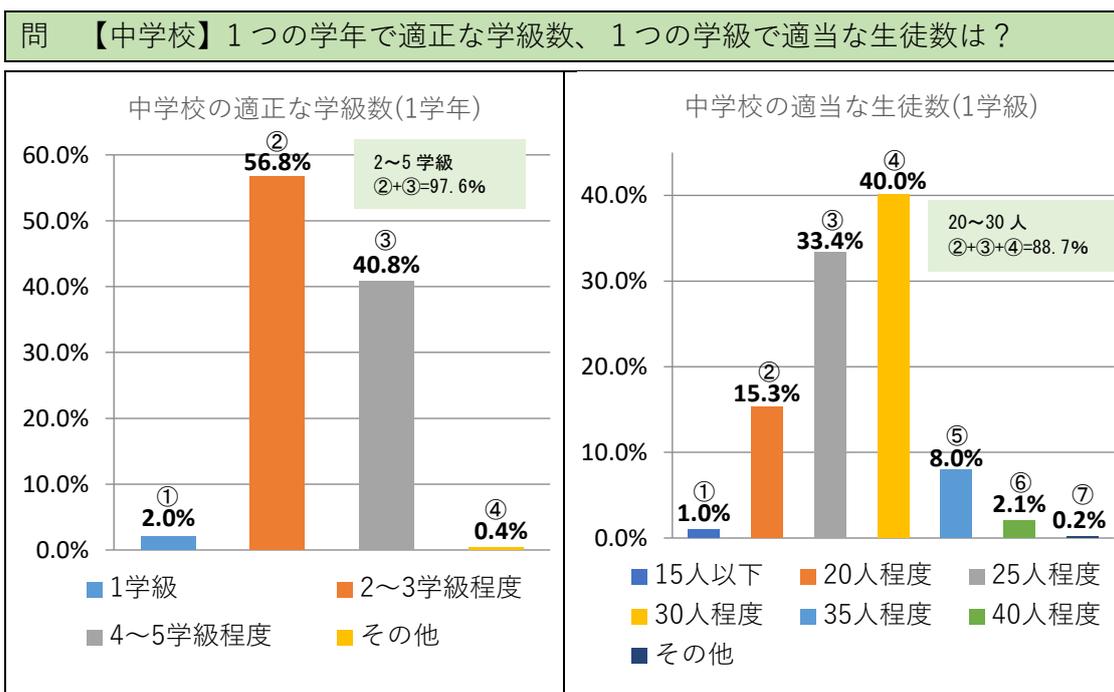
アンケートは、回答者の性別や年代等の基本属性に関する設問のほか、学校の適正規模や適正配置（統廃合）に関する設問など全18問となっており、対象の1,483世帯のうち、914世帯から回答がありました（回答率：61.63%）。

回答世帯の居住地区	対象世帯	回答世帯	回答率
角田地区	685件	444件	64.82%
小田地区	20	12	60.00
横倉地区	160	106	66.25
枝野地区	53	38	71.70
藤尾地区	87	57	65.52
東根地区	33	22	66.67
桜地区	214	106	49.53
北郷地区	172	93	54.07
西根地区	49	27	55.10
その他（丸森町、大河原町、柴田町等）	10	9	90.00
計	1,483	914	61.63

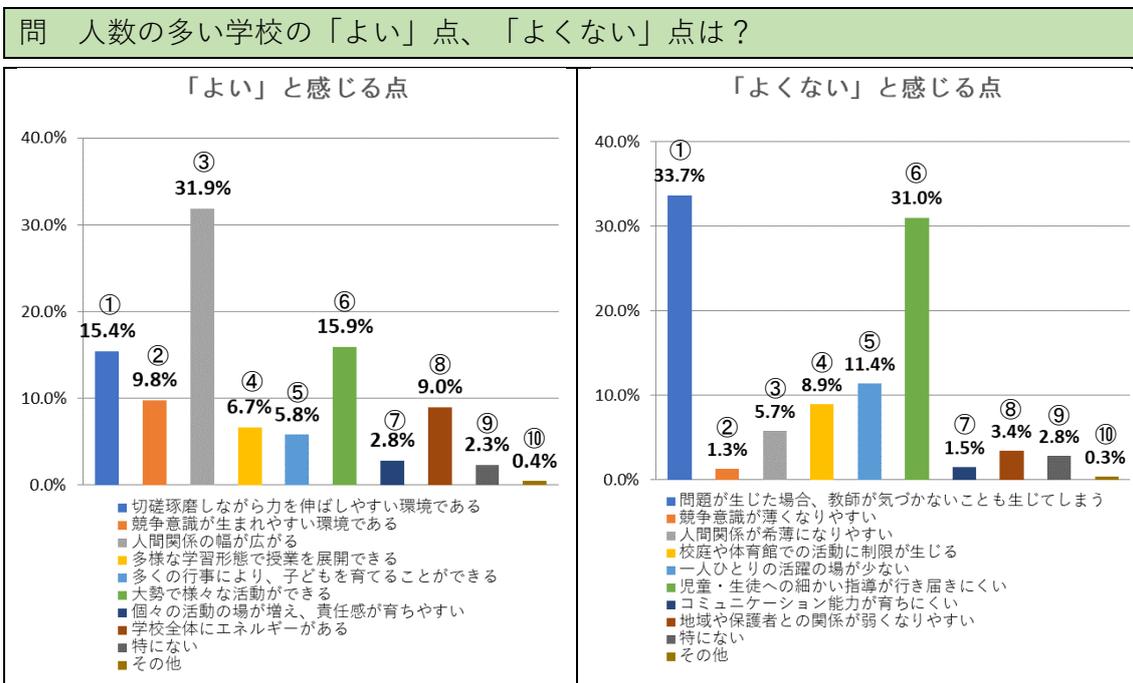
学校の適正規模に関して、「小学校における1つの学年で適正な学級数、1学級当たりの児童数は、どの程度だと考えますか」という設問では、「1学年当たりの望ましい学級数は2～5学級」という回答が全体の91.9%、「1学級当たりの望ましい児童数は20～30人」という回答が全体の94.5%でした。



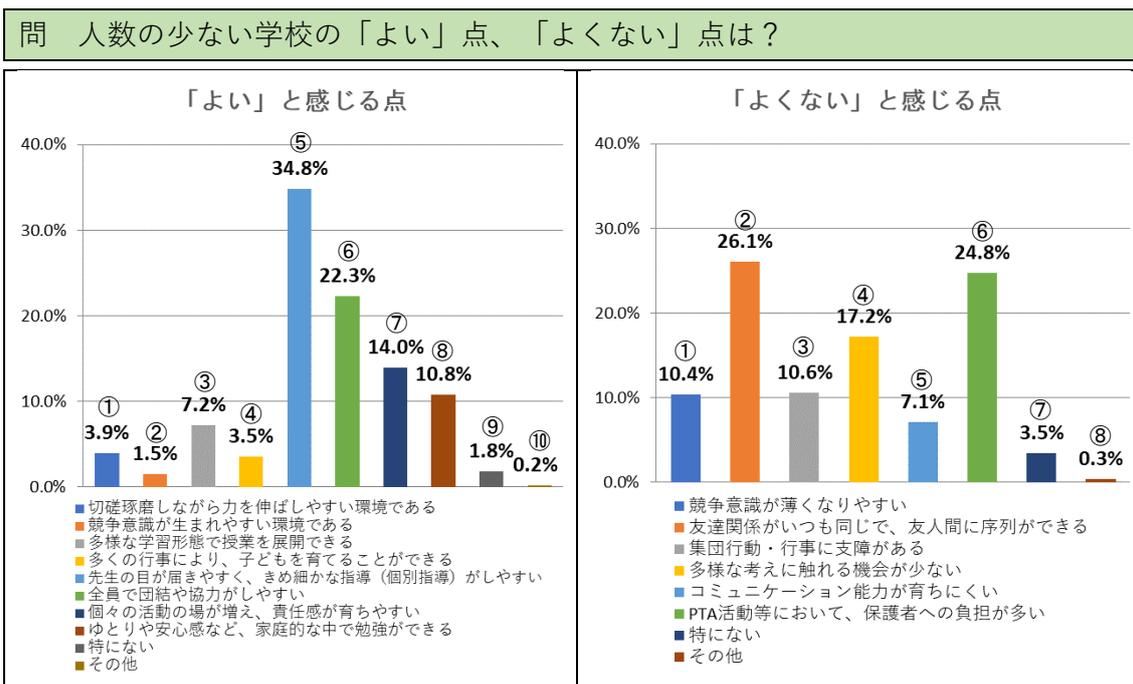
中学校の同様の設問では、「1学年当たりの望ましい学級数は2～5学級」という回答が全体の97.6%、「1学級当たりの望ましい生徒数は20～30人」という回答が全体の88.7%でした。



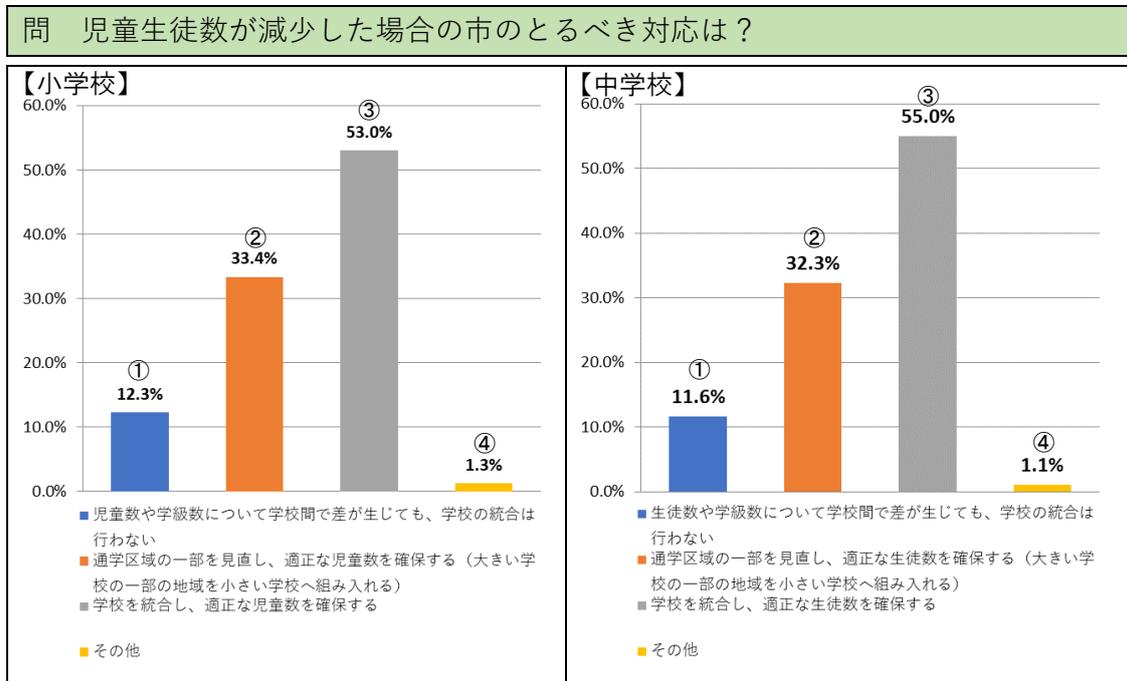
人数が多い学校について「よい」点を聞いた設問では、「③人間関係の幅が広がる」という回答が31.9%と最も多く、「①問題が生じた場合、教師が気づかない」という回答が33.7%と最も多い結果となりました。



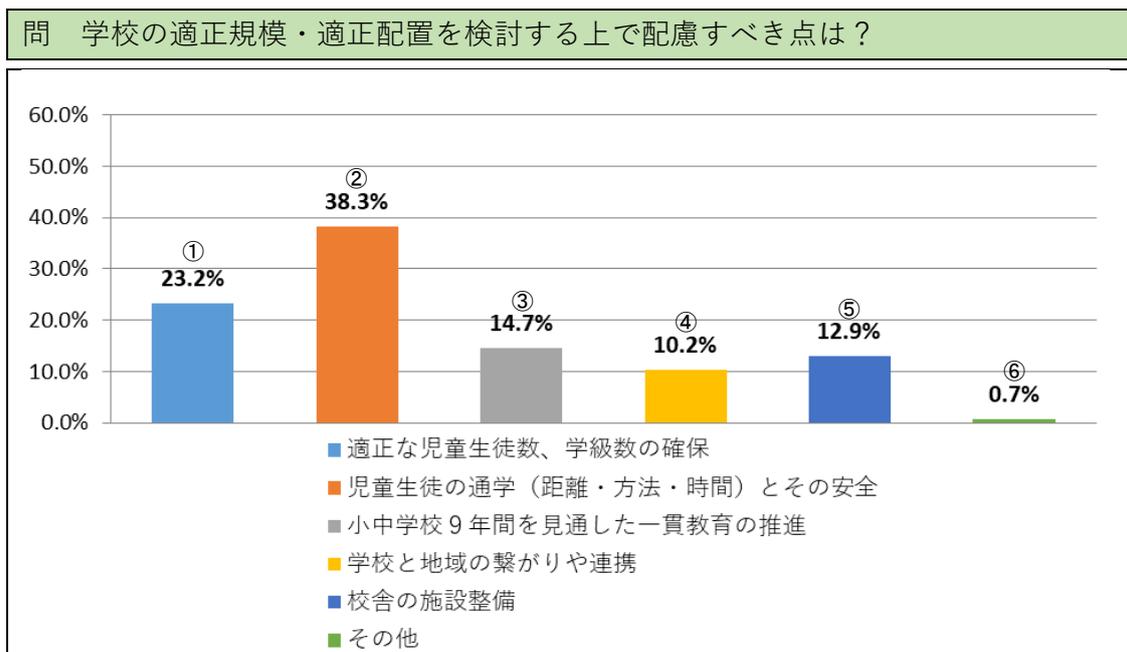
人数の少ない学校について「よい」点を聞いた設問では、「⑤先生が目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい」という回答が34.8%と最も多く、「よくない」と感じる点では、「②友人関係がいつも同じで、友人間に序列ができる」という回答が26.1%と最も多い結果となりました。



「児童生徒数が減少した場合の市のとるべき対応は」という設問では、小中学校ともに「③学校を統合し、適正な児童生徒数を確保する」という回答が最も多い結果となりました。



さらに、「学校の適正規模・適正配置を検討する上で、配慮すべき点は」という設問では、「②児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」という回答が38.3%と最も多い結果となりました。



### (3) 保護者等アンケートからの考察

7 ページ上下段の左側のグラフの1つの学年で適正な学級数を問う設問では、小中学校ともに、クラス替えが可能な2学級以上の学級数を望む回答が多い結果となりましたが、中学校においては、小学校と比べ、4～5学級が望ましいと回答した保護者の割合が多く、より大きな学校規模が求められていることが分かる結果となりました。また、このことは、地区別の集計結果においてもほぼ同様の傾向を示しております（詳細については、【巻末資料】学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート結果集計報告書（以下「保護者等アンケート報告書」という。）の37・41ページを参照のこと。）。

7 ページ上下段の右側のグラフの1つの学級で適当な児童生徒数を問う設問では、小学校では、25人程度が望ましいと回答した保護者が最も多かったのに対し、中学校では、30人程度が望ましいと回答した保護者が最も多く、中学校においては、小学校と比べ、より大きな学級規模が求められていることが分かる結果となりました。また、この設問については、地区別の集計結果において、地区ごとのばらつきが非常に大きい結果となりました。小田・東根・北郷地区では、小中学校で同じ学級規模を望む保護者が多かったのに対し、その他の地区では、小学校よりも中学校の方がより大きな学級規模が望ましいと回答した保護者が多い結果となりました（詳細については、保護者等アンケート報告書の39・43ページを参照のこと。）。

9 ページ上段のグラフの児童生徒数が減少した場合の市のとるべき対応を問う設問では、小中学校ともに、学校統合を望む回答が最も多い結果となりましたが、次点として、大きな学校の地域の一部を小さな学校に組み入れるという通学区域の見直しを望む回答も3割程度となりました。また、このことは、地区別の集計結果において、桜・北郷地区以外の地区でほぼ同様の傾向を示しております（詳細については、保護者等アンケート報告書の47・49ページを参照のこと。）。先述した令和6年4月1日現在の住民基本台帳による未就学児童数を見ると、市全体として子どもたちの数が減少しており、単なる通学区域の見直しは、一方の学校の規模を維持するために、他の学校をより小規模化させることにつながるほか、学区の変更を強いられる子どもたち等に与える影響等を鑑みると、慎重な検討が求められます。

## 6. 検討委員会における検討状況及び最終報告

### (1) 検討委員会における検討状況

検討委員会においては、教育委員会からの検討依頼を受け、基本構想の「第3次行動計画構想」に示す学校再編・統合案の議論を始める前に、基本構想における適正規模の考え方（1学年あたりの学級数や1学級あたりの児童生徒数）や保護者等アンケートの結果等を確認し、以下のとおり、学校適正規模の基本的な考え方を整理し、委員間の共通認識・共通理解を図るところから議論を開始しました。

#### ■学校適正規模の基本的な考え方

学校の適正規模とは、学習集団の規模であり、一定の規模がある中でこそ、子どもたちが互いに切磋琢磨し、ともに成長していくことが可能となる。学校の再編・統合を行うのは、その適正規模を維持するためであり、そのことが教育の質を保証することにもつながる。

また、本市のこれまでの学校再編・統合においては、小学校においては少なくとも一方の学校が過小規模校（複式学級が発生）、中学校においては少なくとも一方の学校が小規模校（クラス替えが不可）となっていることが、学校再編・統合を考える上での一つの判断基準となってきたことを確認しました。

#### ○過去に廃止とした小学校の学級編制の状況等（平成以降）

学校名	廃止年度	廃止時点での学級編制の状況	統合先(又は再編後)
小田小学校	平成22年度	完全複式学級(3学級)	角田小学校へ統合
東根小学校	令和2年度	完全複式学級(3学級)	桜小学校へ統合
西根小学校	令和3年度	複式学級あり(1学級)	北郷小学校へ統合
枝野小学校	令和4年度	複式学級あり(1学級)	枝野・藤尾両校を再編し金津小学校を新設
藤尾小学校	令和4年度	小規模校(各学年1学級)	

#### ○過去に廃止とした中学校の学級編制の状況等（平成以降）

学校名	廃止年度	廃止時点での学級編制の状況	統合先
西根中学校	平成20年度	小規模校(各学年1学級)	北角田中学校へ統合
金津中学校	令和3年度	小規模校(各学年1学級)	角田中学校へ統合

学校再編・統合の検討にあたっては、学校適正規模の基本的な考え方に加え、将来的な児童生徒数の状況、学校施設の老朽化の状況、さらには本市の財政状況等を考慮し、具体的な学校再編・統合について総合的に判断することとなりました。

## (2) 検討委員会における最終報告

検討委員会において、基本構想の「第3次行動計画構想」に示す学校再編・統合案について検討し、一定の結論が得られたことから、令和7年2月18日付けで、検討委員会から教育委員会へ下記の報告書が提出されました。

令和7年2月18日

角田市教育委員会

教育長 永井 哲 殿

角田市学校適正規模検討委員会

委員長 山内 明 樹

## 報 告 書

令和6年3月18日付け角教総第428号で依頼のありました「学校の適正規模、適正配置及び通学区に関する基本的な考え方並びにその実現に向けた具体的方策に係る検討及び報告」について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1. 角田小学校と横倉小学校の再編・統合について

##### (1) 結 論

角田小学校と横倉小学校については、今後も児童数の減少が見込まれるとともに、横倉小学校が過小規模校（複式学級のある学校）に移行することが予想されることから、再編・統合を行うこととする。

なお、その再編・統合を行う時期については、令和9年度までに角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し、今後の児童数の推移を確認のうえ、最終判断する。

##### (2) 理 由

- ・令和6年5月に行った保護者等アンケートの結果では、小学校における1つの学年で適正な学級数については、複数学級が望ましいという意見が多数を占めている。
- ・角田市におけるこれまでの小学校の再編・統合のタイミングについては、少なくとも一方の小学校において過小規模校（複式学級のある学校）に移行してから

統合を行っている。

- ・令和6年4月1日現在の横倉小学校区の住民基本台帳によれば、令和12年度に複式学級が発生することが見込まれるが、その間、転入や転居による社会増等により、複式学級になるタイミングは令和13年度以降になる可能性がある。
- ・学校の再編・統合を行うために必要な期間は、再編・統合の決定後、「準備委員会」での検討及び施設整備等を含めると、少なくとも3年の準備期間が必要となることから、令和9年度までに検討委員会を設置し、今後の児童数の推移を確認のうえ、最終判断するものとした。

### (3) 付帯意見

- ・校舎等の改修については、急を要するものではないことから、統合の結論が出た時点で、「角田市学校施設個別施設計画（長寿命化計画）」に反映させるものとする。
- ・角田小学校と横倉小学校に係る通学区域の見直しについては、当該地域の児童や保護者に多大な影響を及ぼすほか、地域住民の合意形成も難しいと予想されること、さらには角田小学校区と横倉小学校区の出生者数はともに減少傾向であり、一時的な対応にしかならず、抜本的な解決策とはならないことから、慎重に判断すべきである。

## 2. 桜小学校と北郷小学校の再編・統合について

### (1) 結 論

桜小学校と北郷小学校については、小規模校（現行規模）を維持する範囲で児童数が推移していることから、現時点において両校の再編・統合についての判断は行わないこととする。

ただし、将来的に児童数の減少が見込まれることを踏まえ、令和9年度までに検討委員会を設置し、今後の児童数の推移を確認のうえ、必要な検討を進めるものとする。

### (2) 理 由

- ・令和6年4月1日現在の桜小学校区及び北郷小学校区の住民基本台帳によれば、今後も小規模校（現行規模）を維持する範囲で児童数が推移しており、両校が過小規模校（複式学級のある学校）になる状況にないことから、両校の再編・統合

の判断を行わないこととした。

(3) 付帯意見

- ・校舎等の改修については、急を要するものではないことから、統合の結論が出た時点で、「角田市学校施設個別施設計画（長寿命化計画）」に反映させるものとする。
- ・桜小学校と北郷小学校の再編・統合を検討する場合は、桜小学校、北郷小学校及び北角田中学校（※角田中学校と北角田中学校の再編・統合後の建設場所が北角田中学校以外になった場合）を候補地として検討すること。

3. 角田中学校と北角田中学校の再編・統合について

(1) 結 論

角田中学校と北角田中学校については、再編・統合を行うこととする。

(2) 理 由

- ・令和6年5月に行った保護者等アンケートの結果では、中学校における1つの学年での適正な学級数については、複数学級が望ましいという意見が多数を占めている。
- ・令和6年4月1日現在の住民基本台帳によれば、今後も両校の生徒数は減少し続け、令和18年度には、令和6年度と比較し、角田中学校で6割減、北角田中学校で3割減となるほか、北角田中学校においては、第1学年が1学級のみとなり、適正規模校（6学級）から小規模校（5学級）となることが見込まれている。
- ・角田中学校校舎・屋内運動場及び北角田中学校屋内運動場については、老朽化が進行しており、大規模改造や長寿命化改修が必要な時期が迫っているが、角田市の厳しい財政状況を踏まえると、最初から統合新設を目指す方が相対的に財政負担の軽減を図ることができる。
- ・国では、これからの時代に備えるべき教育環境として、バリアフリー化、ZEB化、空調設備の設置、トイレの洋式化・乾式化、多目的スペースの設置等を強く求めているが、多額のコストがかかることから、統合新設の有利な財源等を活用し、併せて整備することを検討すること。

(3) 付帯意見

- ・角田中学校と北角田中学校の再編・統合後の建設候補地については、角田中学校、北角田中学校及び旧角田女子高等学校跡地の3箇所とし、令和7年度に設置する検討委員会において、立地、教育活動への影響、経済性、防災面等の観点から、総合的に判断するものとする。
- ・建設候補地の選定後は、具体の整備基本計画の策定に着手するものとし、令和7年度以降に設置する検討委員会において協議するものとする。

4. 検討委員会における検討状況

当検討委員会は、本件依頼に対して以下のとおり協議を行った。

- 第1回 令和6年 3月18日(月) アンケート案の内容確認等
- 第2回 令和6年 5月30日(木) アンケート速報値報告・論点整理説明等
- 第3回 令和6年 6月27日(木) アンケート集計結果報告等
- 第4回 令和6年 7月31日(木) 学校再編・統合の協議等
- 第5回 令和6年 8月28日(水) 学校再編・統合の協議等
- 第6回 令和6年 9月24日(火) 学校再編・統合の協議等
- 第7回 令和6年10月30日(水) 学校再編・統合の協議等
- 第8回 令和6年11月27日(水) 検討事項の中間とりまとめ等
- 第9回 令和7年 2月18日(火) 検討委員会から教育委員会へ最終報告等

角田市学校適正規模検討委員会委員名簿(敬称略)

区 分		氏 名		備考
		令和5年度 (第1回)	令和6年度 (第2～9回)	
1 地域代表者	角田地区行政区長会会長	高橋 輝昭	同 左	副委員長
	横倉地区行政区長会会長	安部 勝	咲間 豊次	
	小田地区行政区長会会長	目黒 孝	同 左	
	枝野地区行政区長会会長	佐藤 孝一	同 左	
	藤尾地区行政区長会会長	佐々 克仁	今野 正	
	東根地区行政区長会会長	菊地 保次	同 左	
	桜地区行政区長会会長	根元 三安夫	同 左	
	北郷地区行政区長会会長	今野 良一	吉田 正廣	
	西根地区行政区長会会長	堀米 正利	黒田 恒男	
	2 保護者代表者	角田小学校父母教師会会長	横山 康	
横倉小学校父母教師会会長		木村 伊織	菊地 美樹雄	
金津小学校父母教師会会長		佐藤 和隆	同 左	
桜小学校父母教師会会長		大平 一光	武田 浩伸	
北郷小学校父母教師会会長		岩間 学	同 左	
角田中学校父母教師会会長		武田 暁	同 左	
北角田中学校父母教師会会長		鈴木 貴博	同 左	
3 学校関係者	角田市校長会会長	齋藤 祐一	横尾 裕美子	
	角田市校長会副会長	横尾 裕美子	阿部 篤史	
4 学識経験者	仙台大学教授	山内 明樹	同 左	委員長

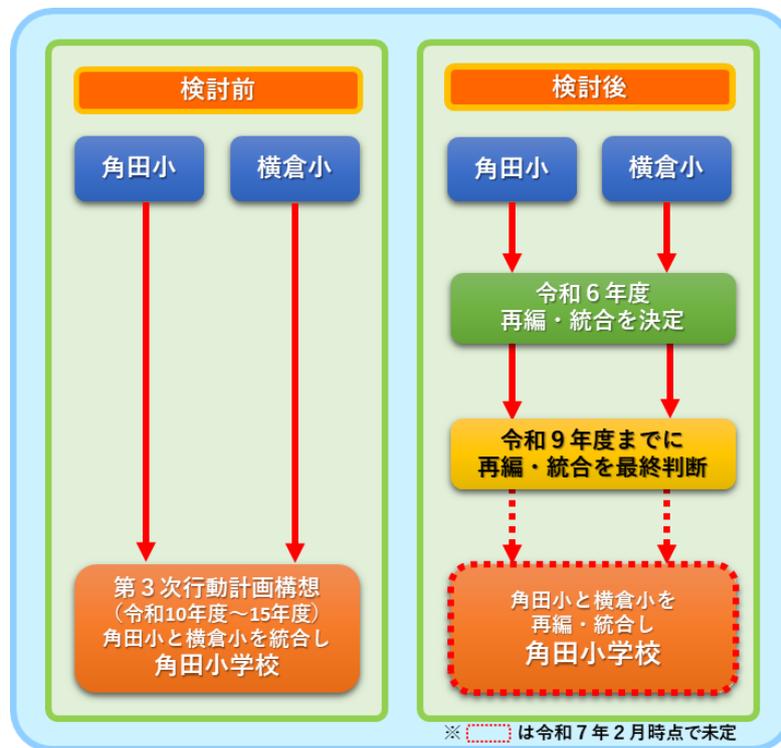
計 19 名

## 7. 「第3次行動計画構想」に基づく学校再編・統合の具体化方針

教育委員会では、令和7年2月18日付けで検討委員会から提出された報告書の内容を踏まえ、基本構想の「第3次行動計画構想」に示す学校再編・統合案のうち、次のことについて方針を決定するものです。

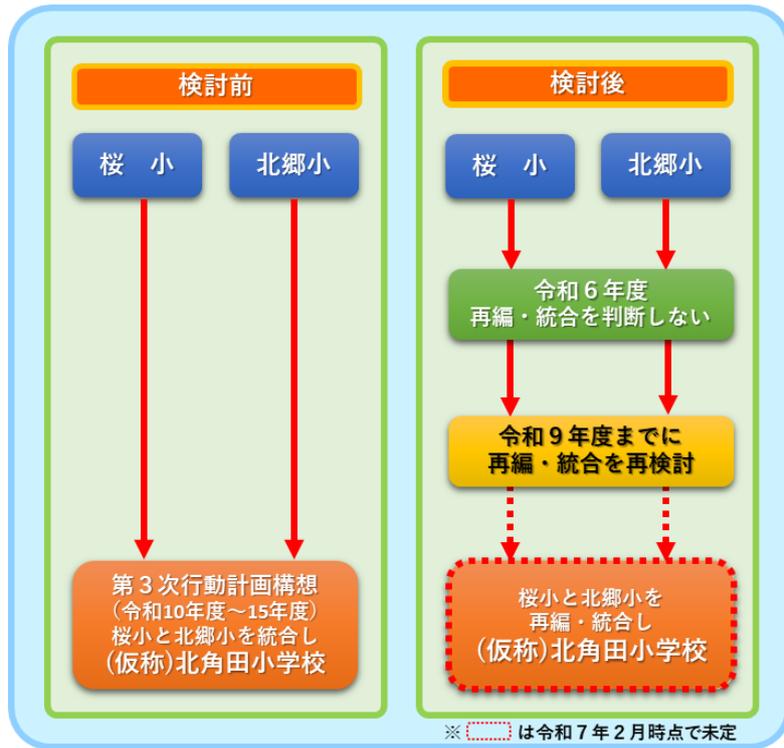
### (1) 角田小学校と横倉小学校の再編・統合

両校とも児童数の減少が見込まれ、令和12年度以降、横倉小学校が過小規模校(複式学級のある学校)に移行することが予想されることから、両校の再編・統合を決定する。ただし、現時点において、その再編・統合を行う時期がまだ見通せないことから、令和9年度までに検討委員会を設置し、その時点での児童数の推移等を確認のうえ、最終判断する。なお、報告書の付帯意見を踏まえ、通学区域の見直し(角田小学校校区等の一部地域を横倉小学校区へ編入)については、市全体で出生者数が減少傾向にあり、抜本的な解決策とはならないことから、慎重に判断する。



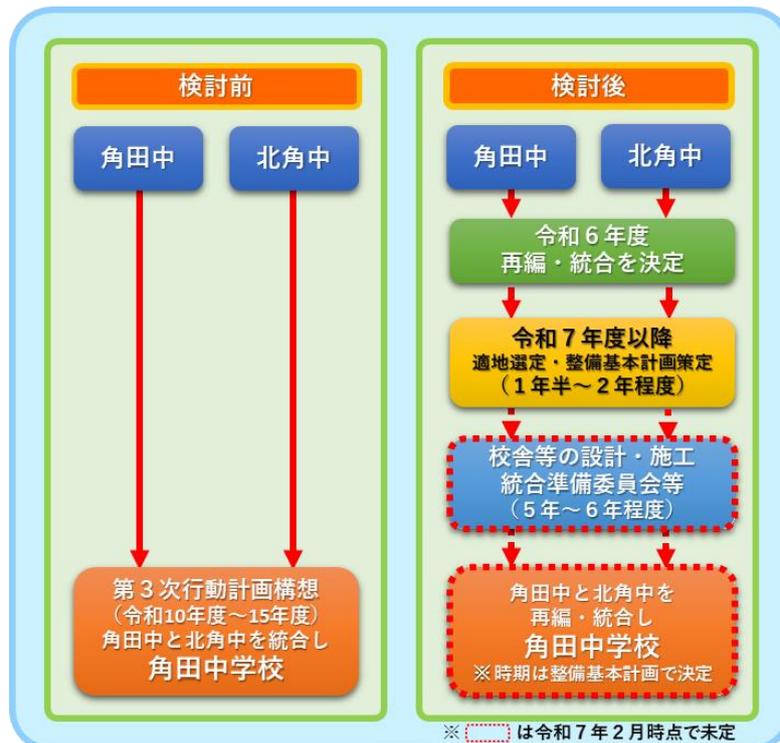
### (2) 桜小学校と北郷小学校の再編・統合

両校とも小規模校(現行規模)を維持する範囲で児童数が推移しており、当分の間は、直ちに過小規模校(複式学級のある学校)に移行する状況にないことから、現時点では両校の再編・統合の判断は行わない。ただし、将来的に児童数の減少が見込まれることを踏まえ、令和9年度までに検討委員会を設置し、その時点での児童数の推移等を確認のうえ、必要な検討を進める。



### (3) 角田中学校と北角田中学校の再編・統合

両校とも将来的な生徒数の減少が見込まれること、学校施設の老朽化が進行しており、その解消が急務であること、本市の厳しい財政状況を踏まえ、改修・整備コストを最小化する必要があることなどを総合的に判断し、両校の再編・統合を決定する。なお、報告書の付帯意見を踏まえ、両校再編・統合後の新生中学校の適地選定や整備基本計画については、令和7年度以降に設置する検討委員会において検討する。



## 8. 「第3次行動計画構想」の更なる具体化に向けて

今回の具体化方針については、基本構想の「第3次行動計画構想」に示す学校再編・統合案の一部について方向性を決定したに過ぎず、現時点では、基本構想や市立学校条例の見直しまでは至らないことから、令和7年度以降に設置する検討委員会等において、引き続き具体化に向けた検討を進める必要があります。

教育委員会では、検討委員会の報告書を踏まえ、令和7年度以降は、角田中学校と北角田中学校の再編・統合の具体化に向けた検討を先行して進めるものとし、新生中学校の適地選定や整備基本計画の策定等を終え、供用開始までの全体スケジュールが確定した段階で、基本構想や市立学校条例の見直しを図ることとしております。



学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート  
結果集計報告書

■■■アンケート調査等の概要■■■

1. 調査期間 令和6年5月7日～5月31日
2. 調査対象者 ①市立小中学校に在籍する児童生徒の保護者  
②①以外で角田市に住民票を有する児童生徒の保護者  
③未就学児の保護者  
計 1,483人
3. 回収率 保護者914人より回収 回収率61.63%

令和6年6月27日

角田市教育委員会

## 目 次

### ■基本項目

- 問1 あなたの性別を教えてください・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1  
問2 あなたの年齢を教えてください・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2  
問3 お住まいの地区はどちらですか・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3  
問4 現在、お子様はどちらに在籍されていますか・・・・・・・・ p.4

### ■適正規模について

- 問5 人数の多い学校を「よい」と感じる点はどれですか・・・・・・・・ p.6  
問6 人数の多い学校を「よくない」と感じる点はどれですか・・・・・・・・ p.8  
問7 人数の少ない学校を「よい」と感じる点はどれですか・・・・・・・・ p.10  
問8 人数の少ない学校を「よくない」と感じる点はどれですか・・・・・・・・ p.12  
問9 【小学校】一つの学年で適正な学級数はどの程度だと考えますか・・・・・・・・ p.14  
問10 【小学校】1学級あたりの児童数は何人が適当だと考えますか・・・・・・・・ p.16  
問11 【中学校】一つの学年で適正な学級数はどの程度だと考えますか・・・・・・・・ p.18  
問12 【中学校】1学級あたりの生徒数は何人が適当だと考えますか・・・・・・・・ p.20  
問13 学級数や学級の人数が減る影響はどのように考えますか・・・・・・・・ p.22

### ■適正配置(統廃合)について

- 問14 【小学校】今後、小学校の児童数がさらに減少した場合、市がとるべき対応として最も適切なものはどれですか・・・・・・・・・・・・・・・・ p.24  
問15 【中学校】今後、中学校の生徒数がさらに減少した場合、市がとるべき対応として最も適切なものはどれですか・・・・・・・・・・・・・・・・ p.26  
問16 学校の適正規模・適正配置を検討する上で配慮すべき点は何ですか・・・・・・・・ p.28

### ■東根小統合以降の適正配置(統廃合)に対する評価

- 問17-1 学校の適正配置(統廃合)をご経験されたご家庭ですか・・・・・・・・ p.30  
問17-2 お子様はすぐに新しい環境(統合先の学校)に慣れましたか・・・・・・・・ p.32  
問17-3 お子様の学習意欲に良い変化は見られましたか・・・・・・・・ p.32  
問17-4 行事や部活等においてお子様に良い変化はありましたか・・・・・・・・ p.33  
問17-5 お子様の人間関係に良い影響はありましたか・・・・・・・・ p.33  
問17-6 学校の適正配置(統廃合)によりお子様の通学距離が延びましたか・・・・・・・・ p.34  
問17-7 お子様はすぐに通学(スクールバス含む)に慣れましたか・・・・・・・・ p.35  
問17-8 通学距離が延びたことで保護者様の負担は増えましたか・・・・・・・・ p.35

### ■自由意見

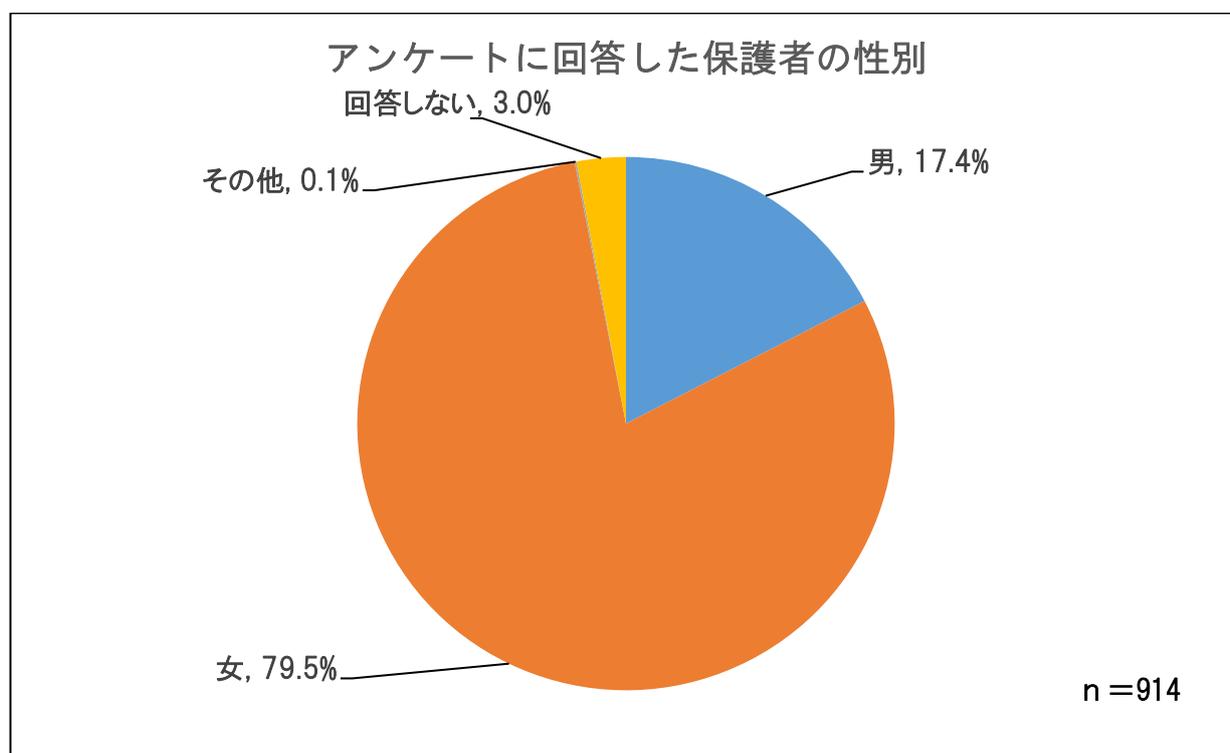
- 問18 学校・教育委員会・市に対するご意見等をお聞かせください・・・・・・・・ p.36

## ■基本項目

### 問1 あなたの性別を教えてください

男女比は男性 17.4%、女性 79.5%と女性の方が多い結果となりました。

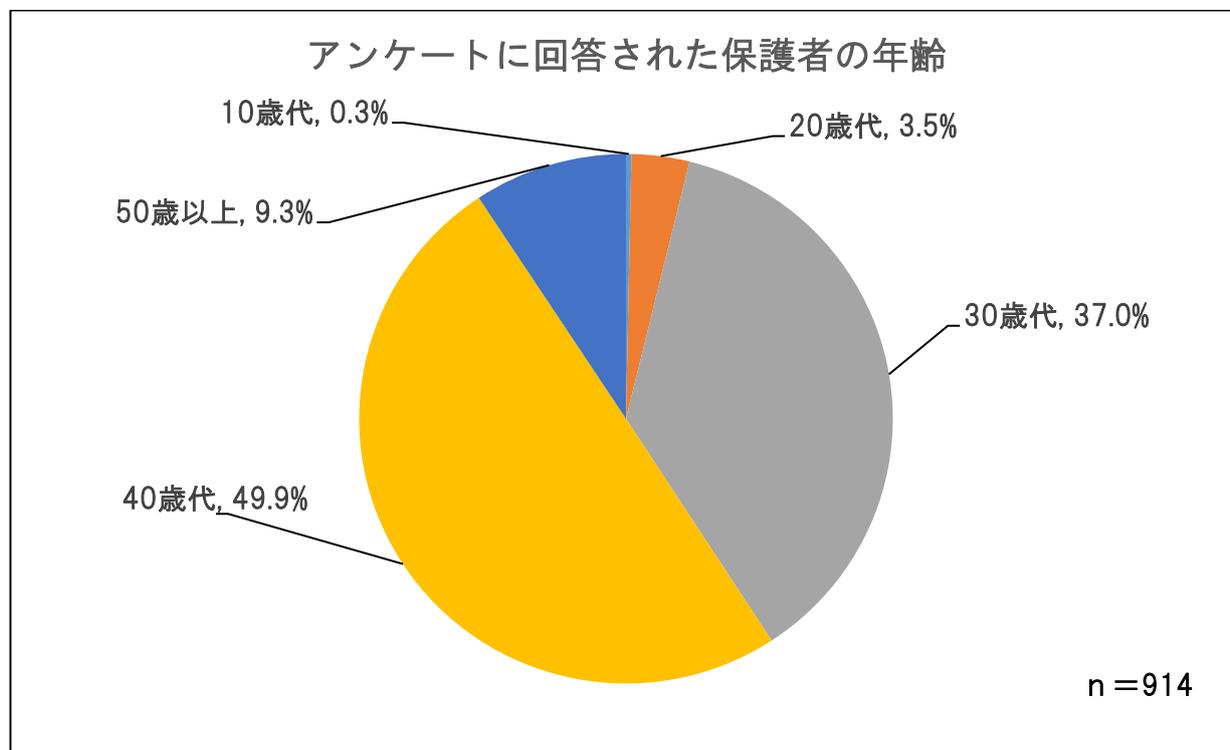
選 択 肢	件 数	割 合
男	159 件	17.4%
女	727	79.5
その他	1	0.1
回答しない	27	3.0
計	914	100.0



## 問2 あなたの年齢を教えてください（令和6年4月1日現在）

40歳代が最も多く49.9%で、次いで30歳代が37.0%となりました。

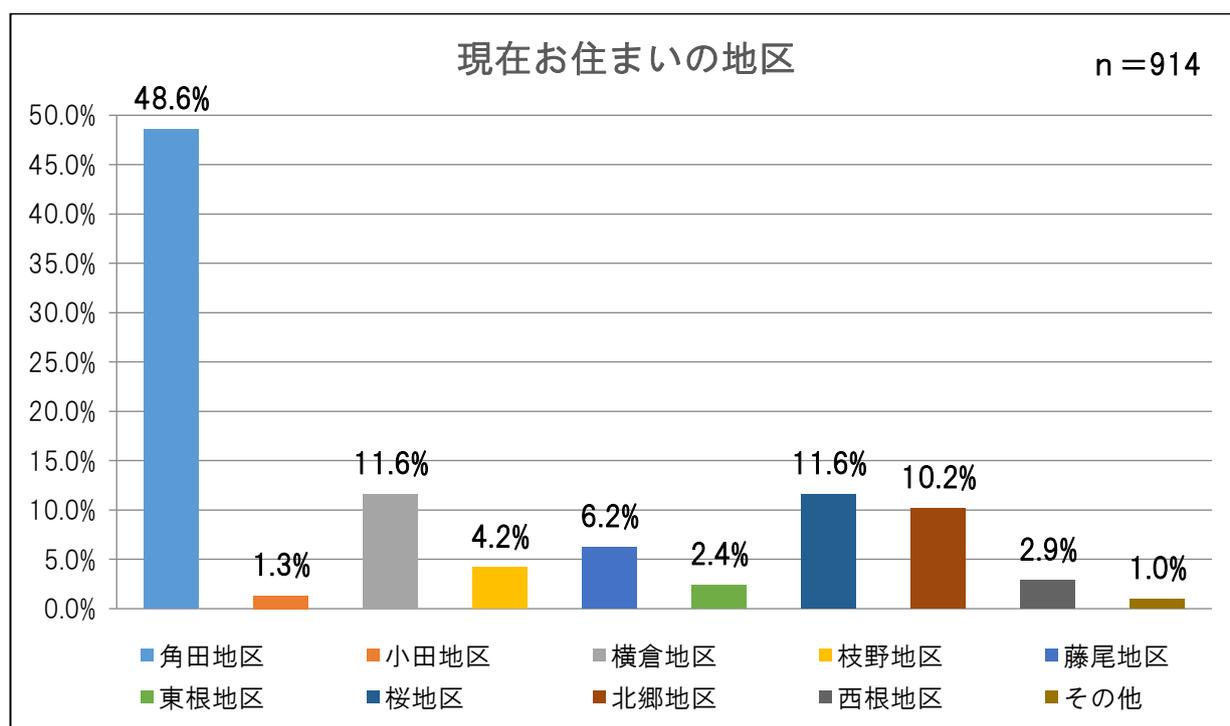
選 択 肢	件 数	割 合
10歳代	3件	0.3%
20歳代	32	3.5
30歳代	338	37.0
40歳代	456	49.9
50歳以上	85	9.3
計	914	100.0



### 問3 お住まいの地区はどちらですか（1つだけに○）

角田地区が最も多く 48.6%で、次いで横倉地区・桜地区が 11.6%となりました。

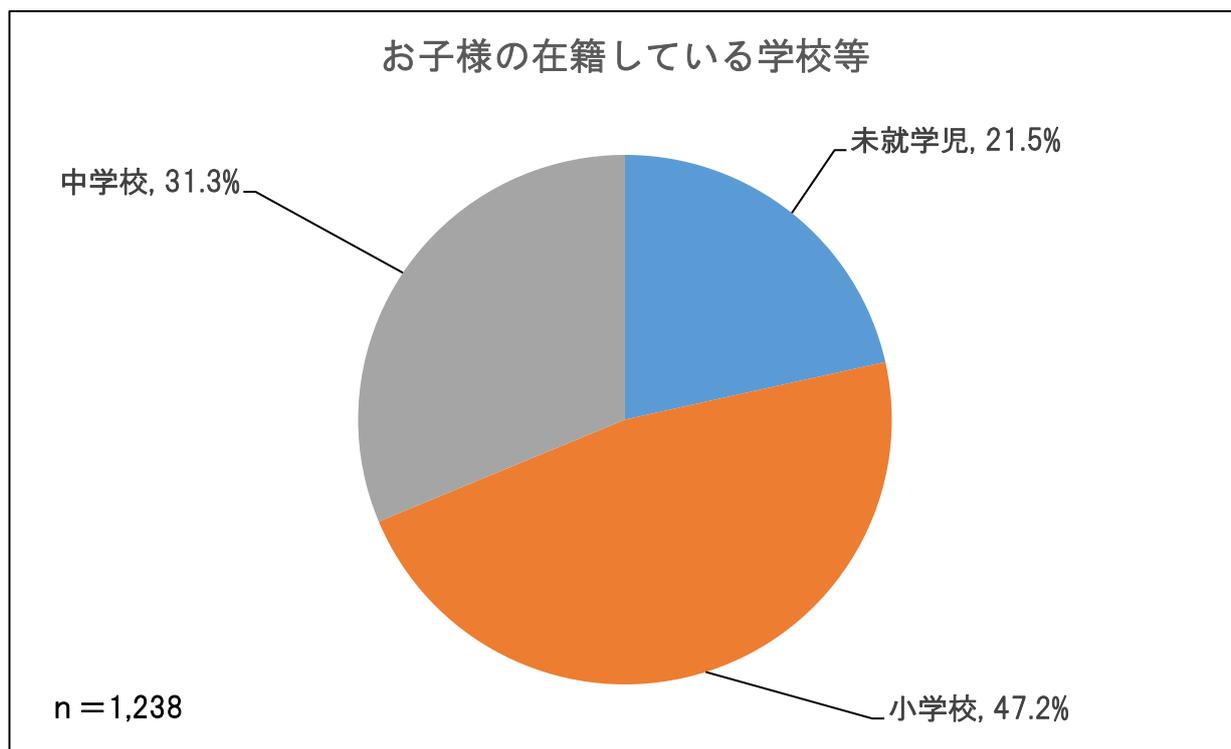
選 択 肢	件 数	割 合
角田地区	444 件	48.6%
小田地区	12	1.3
横倉地区	106	11.6
枝野地区	38	4.2
藤尾地区	57	6.2
東根地区	22	2.4
桜地区	106	11.6
北郷地区	93	10.2
西根地区	27	2.9
その他	9	1.0
計	914	100.0



#### 問4 現在、お子様はどちらに在籍されていますか（複数回答可）

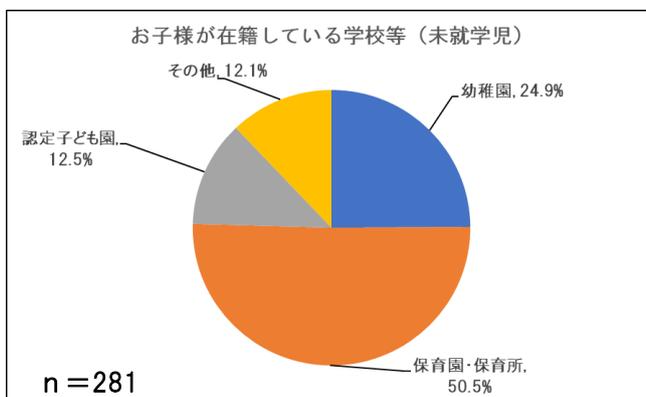
小学校が最も多く 47.2%で、次いで中学校が 31.3%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
未就学児	266 件	21.5%
小学校	585	47.2
中学校	387	31.3
計	1,238	100.0



#### 問4 (追加質問) 未就学児のお子様の通園先等

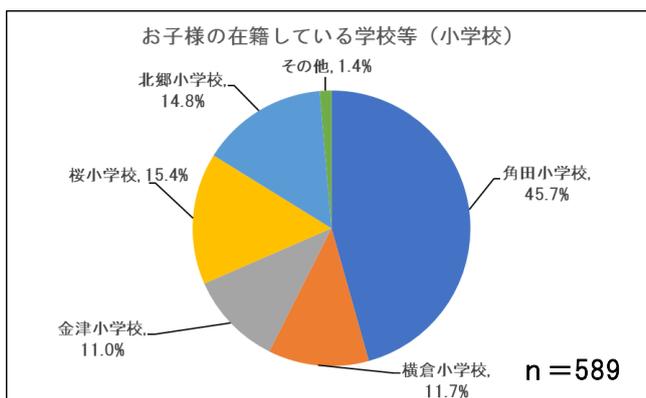
選択肢(未就学)	件 数	割 合
幼稚園	70 件	24.9%
保育園・保育所	142	50.5
認定子ども園	35	12.5
その他	34	12.1
計	281	100.0



その他：家庭保育、祖父母宅、施設

#### 問4 (追加質問) 小学生のお子様の通学先等

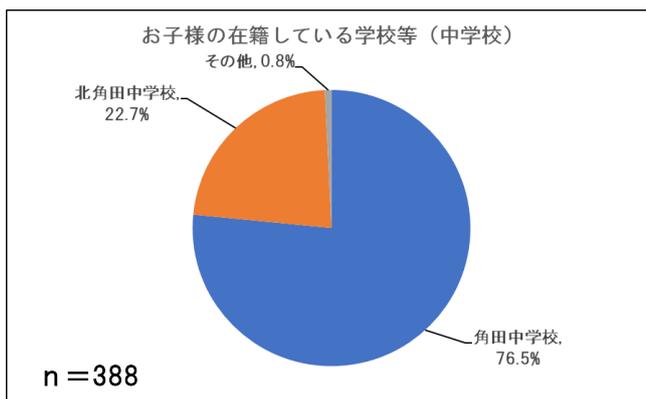
選択肢(小学校)	件数	割合
角田小学校	269件	45.7%
横倉小学校	69	11.7
金津小学校	65	11.0
桜小学校	91	15.4
北郷小学校	87	14.8
その他	8	1.4
計	589	100.0



その他：角田支援学校、船岡支援学校、船岡小学校、白石市立小原学園

#### 問4 (追加質問) 中学生のお子様の通学先等

選択肢(中学校)	件数	割合
角田中学校	297件	76.5%
北角田中学校	88	22.7
その他	3	0.8
計	388	100.0



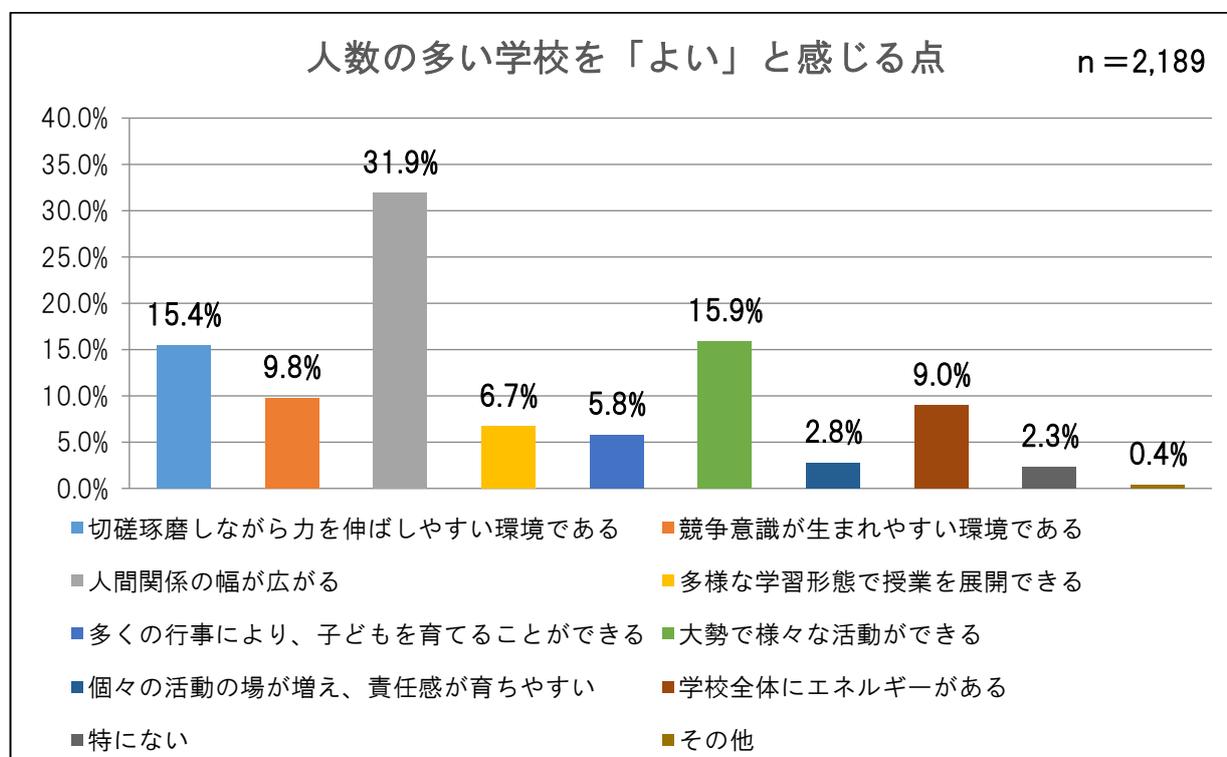
その他：船岡中学校、仙台白百合学園中学校、子どもの心のケアハウス

## ■適正規模について

### 問5 人数の多い学校を「よい」と感じる点はどれですか（3つまで）

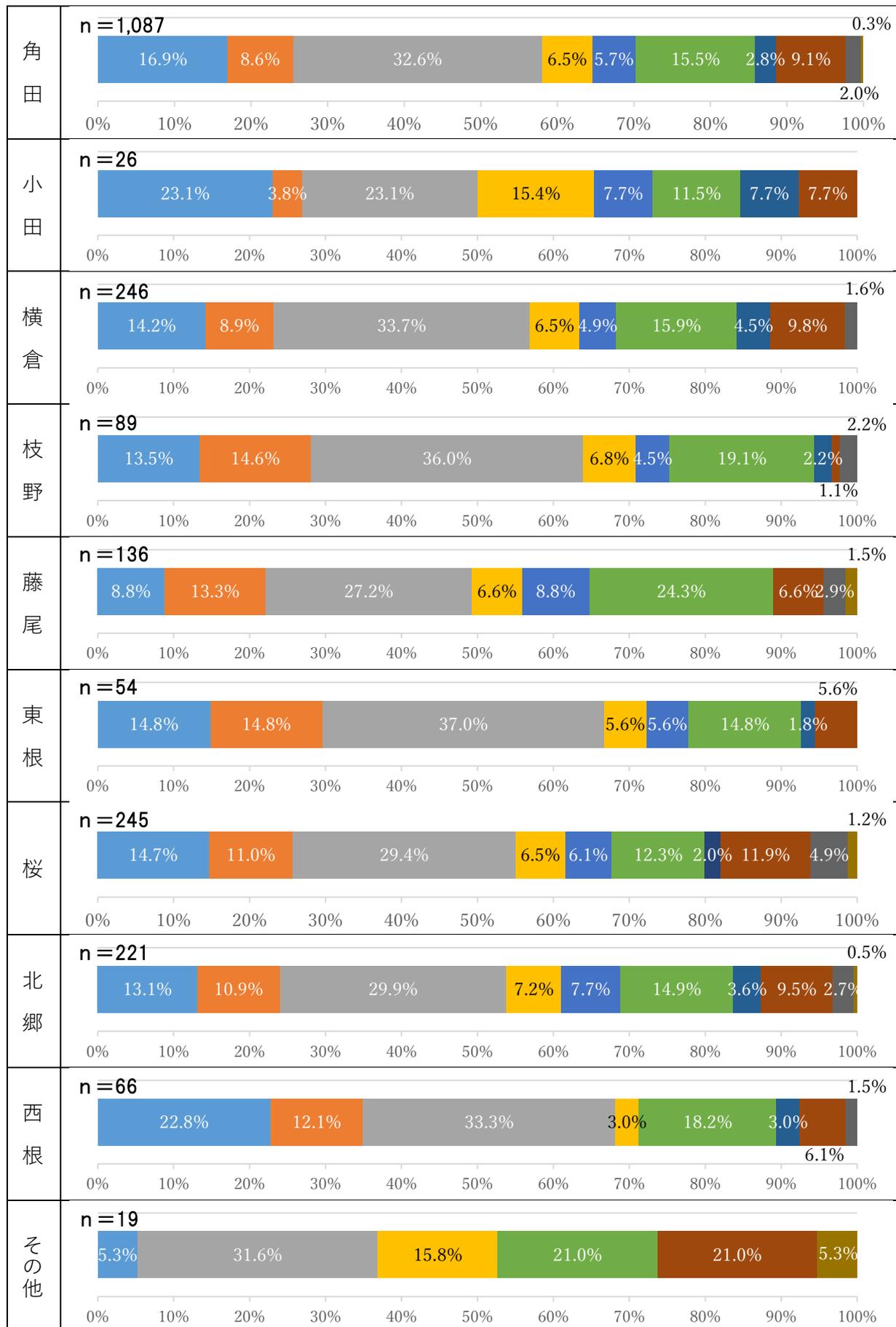
「人間関係の幅が広がる」が最も多く31.9%で、次いで「大勢で様々な活動ができる」が15.9%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である	338件	15.4%
競争意識が生まれやすい環境である	214	9.8
人間関係の幅が広がる	698	31.9
多様な学習形態で授業を展開できる	146	6.7
多くの行事により、子どもを育てることができる	127	5.8
大勢で様々な活動ができる	348	15.9
個々の活動の場が増え、責任感が育ちやすい	61	2.8
学校全体にエネルギーがある	196	9.0
特にない	51	2.3
その他	10	0.4
計	2,189	100.0



その他：「PTA 役員等が頻繁に回ってこない」「友人とのトラブルがあった場合、クラス替えによりリセットできる」「部活等の活動が円滑に行える」「1つの事に余裕をもって取り組める」等

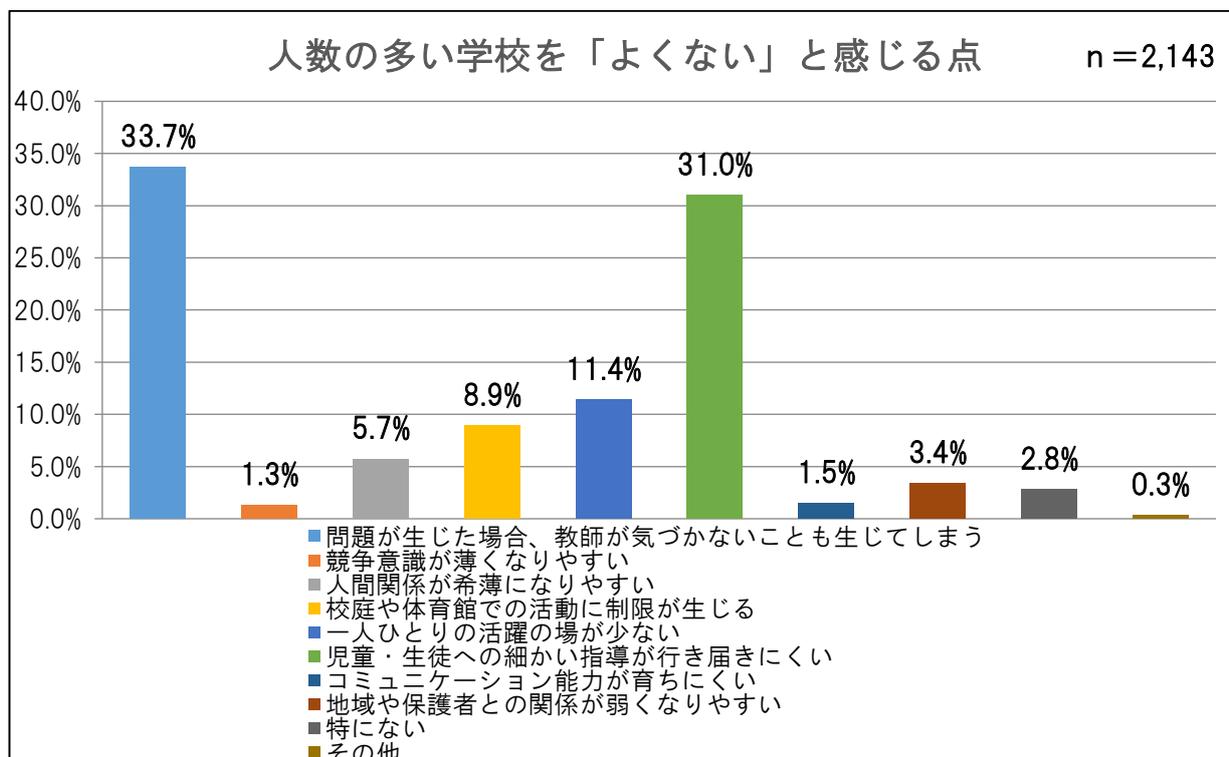
問5の地区別割合



## 問6 人数の多い学校を「よくない」と感じる点はどれですか（3つまで）

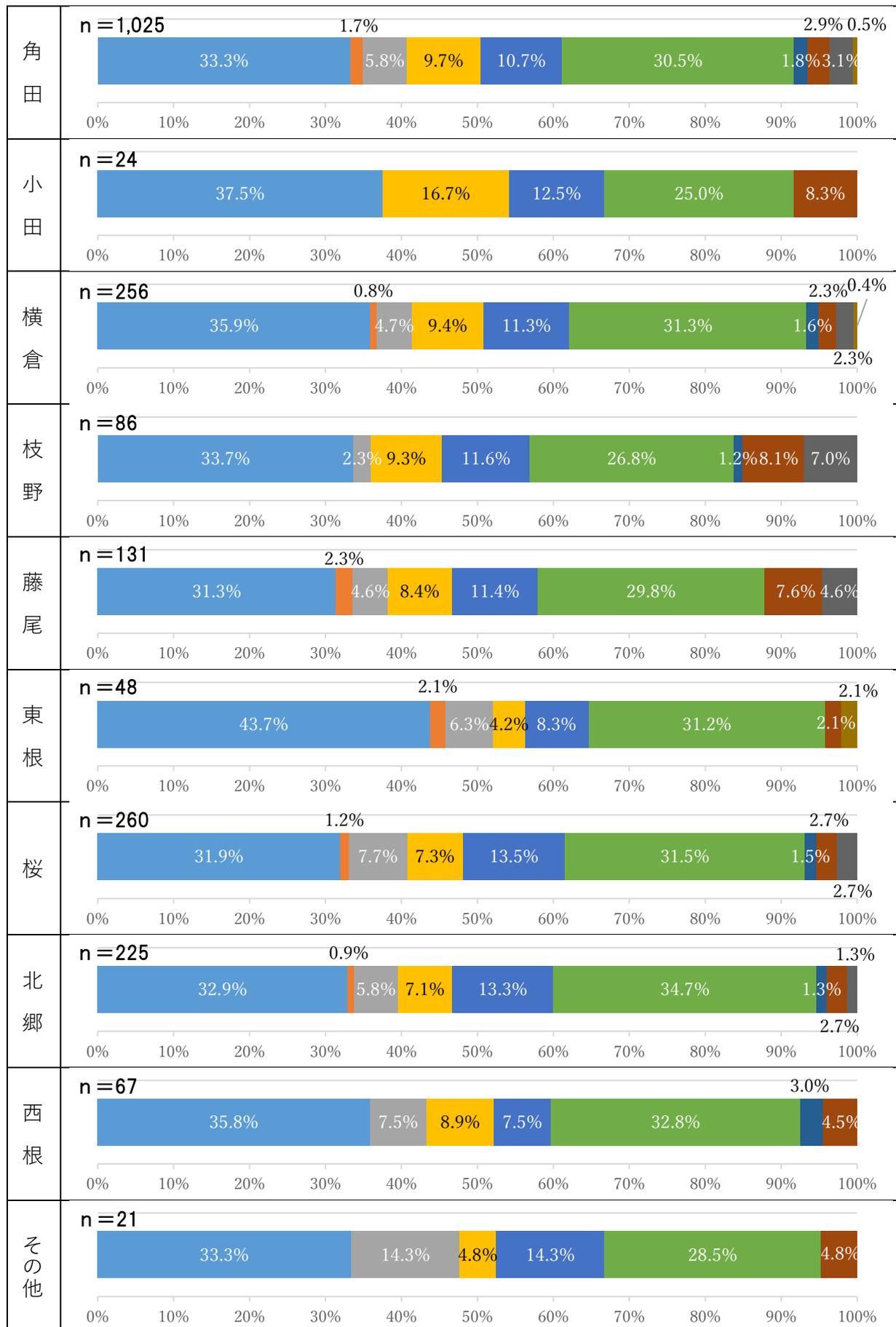
「問題が生じた場合、教師が気づかないことも生じてしまう」が最も多く 33.7%で、次いで「児童・生徒への細かい指導が行き届きにくい」が 31.0%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
問題が生じた場合、教師が気づかないことも生じてしまう	721件	33.7%
競争意識が薄くなりやすい	28	1.3%
人間関係が希薄になりやすい	123	5.7%
校庭や体育館での活動に制限が生じる	191	8.9%
一人ひとりの活躍の場が少ない	244	11.4%
児童・生徒への細かい指導が行き届きにくい	664	31.0%
コミュニケーション能力が育ちにくい	32	1.5%
地域や保護者との関係が弱くなりやすい	73	3.4%
特にない	60	2.8%
その他	7	0.3%
計	2,143	100.0



その他：「いじめ等が起きやすい」「学校や保護者と距離感を感じる」「1クラスの人数が少ない方が手厚い指導を受けられる」「先生がたりない」等

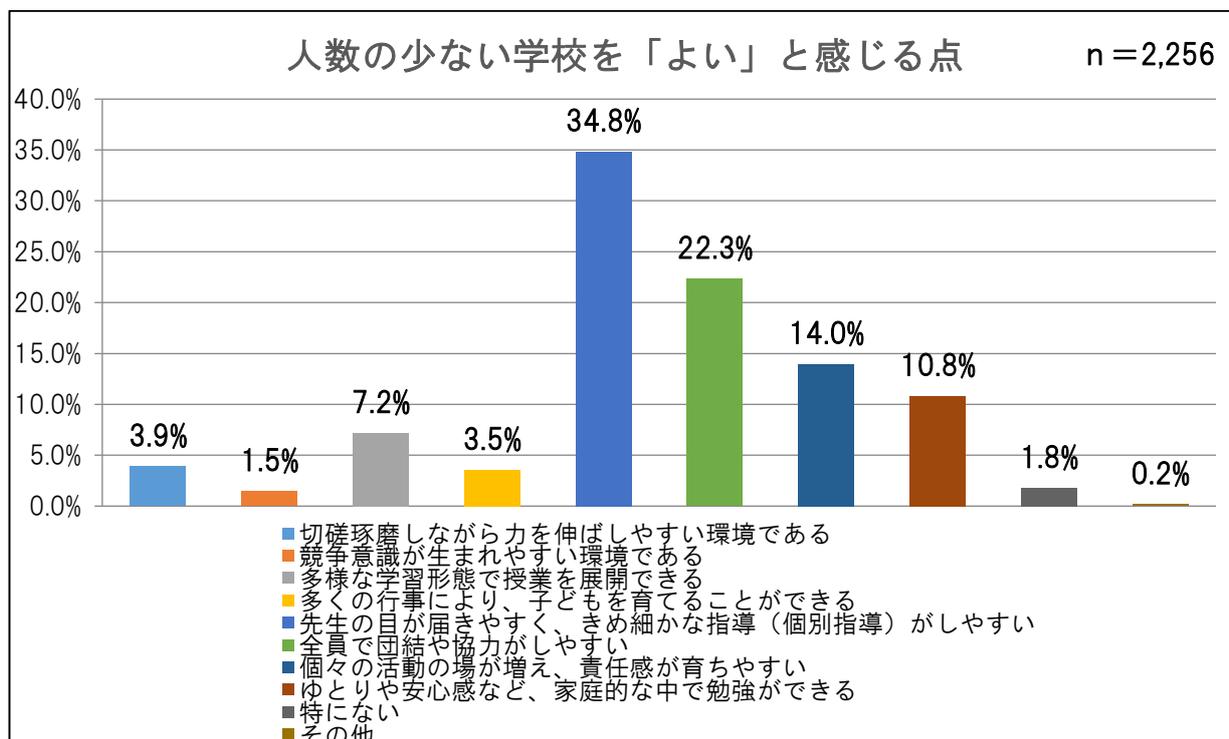
問6の地区別割合



## 問7 人数の少ない学校を「よい」と感じる点はどれですか（3つまで）

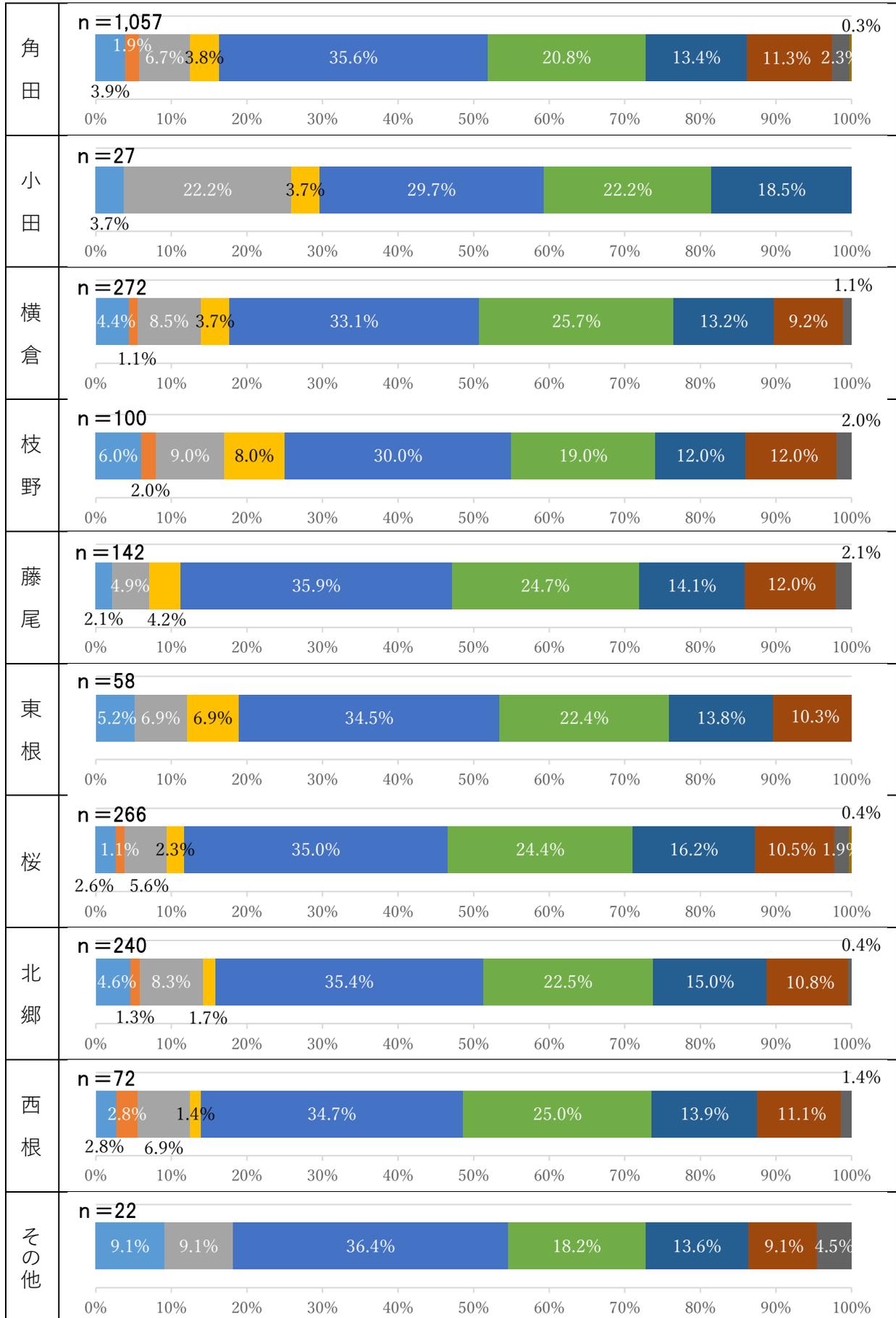
「先生の目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい」が最も多く 34.8%で、次いで「全員で団結や協力がしやすい」が 22.3%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である	88件	3.9%
競争意識が生まれやすい環境である	33	1.5
多様な学習形態で授業を展開できる	162	7.2
多くの行事により、子どもを育てることができる	80	3.5
先生の目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい	786	34.8
全員で団結や協力がしやすい	504	22.3
個々の活動の場が増え、責任感が育ちやすい	315	14.0
ゆとりや安心感など、家庭的な中で勉強ができる	244	10.8
特にない	40	1.8
その他	4	0.2
計	2,256	100.0



その他：「皆で仲良く思いやりや協力し合える」「保護者や地域の方々との距離が近く、子どもを見守る環境を作りやすい」等

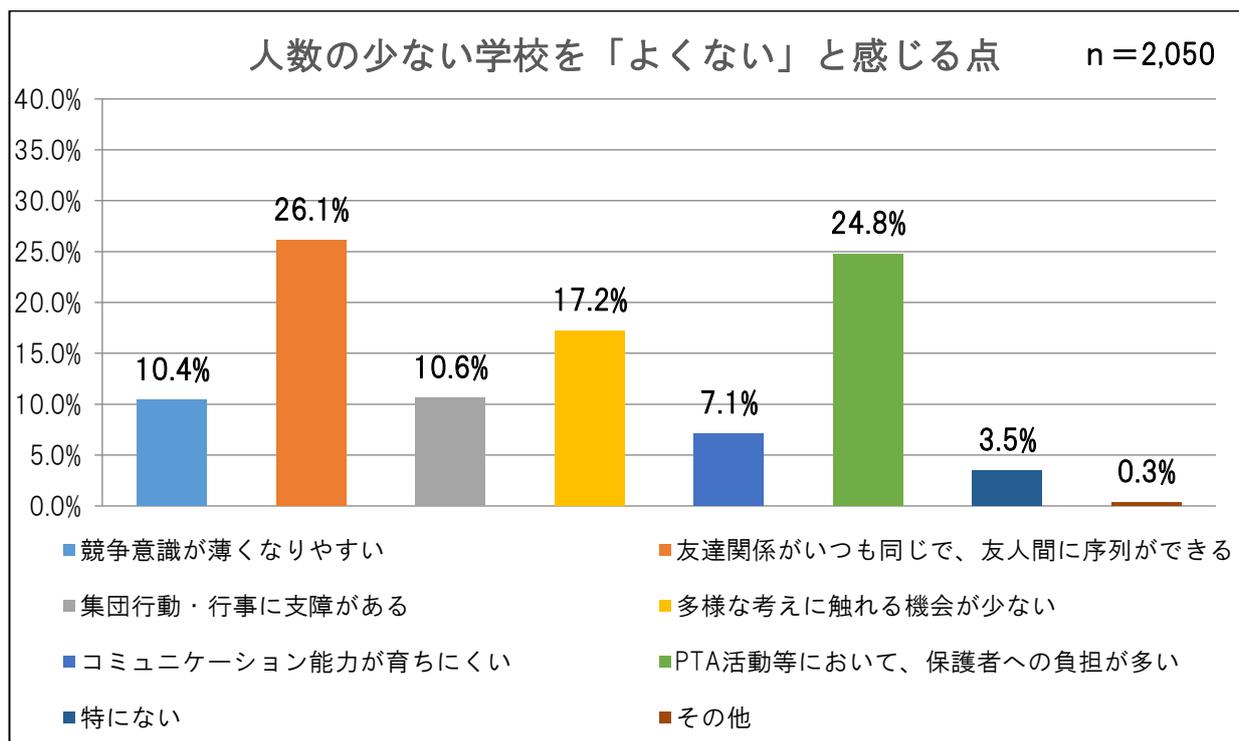
問7の地区別割合



**問8 人数の少ない学校を「よくない」と感じる点はどれですか（3つまで）**

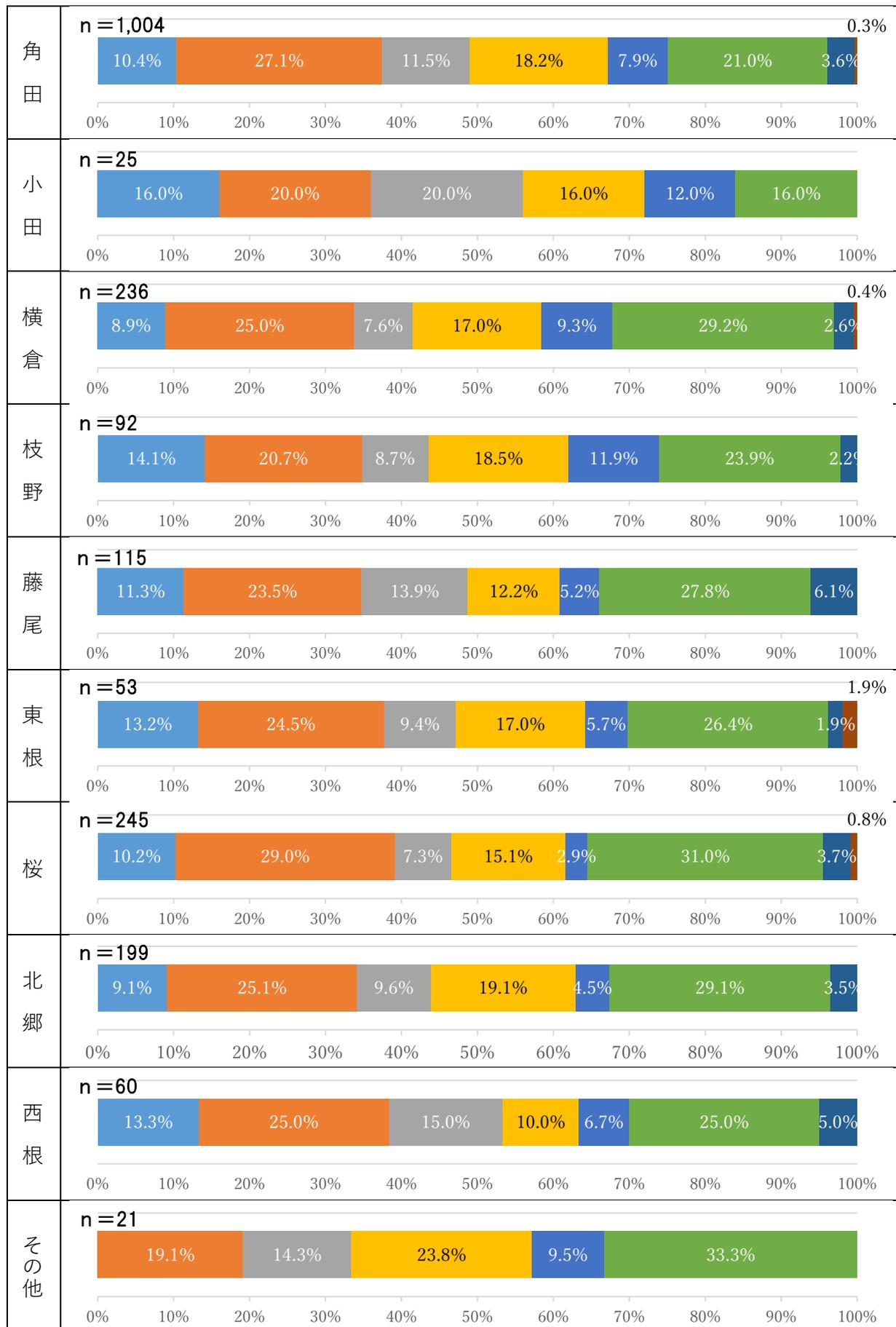
「友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる」が最も多く 26.1%で、次いで「PTA 活動等において、保護者への負担が多い」が 24.8%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
競争意識が薄くなりやすい	213 件	10.4%
友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる	535	26.1
集団行動・行事に支障がある	217	10.6
多様な考えに触れる機会が少ない	353	17.2
コミュニケーション能力が育ちにくい	146	7.1
PTA 活動等において、保護者への負担が多い	508	24.8
特にない	71	3.5
その他	7	0.3
計	2,050	100.0



その他：「クラス替えができないので、いじめ等でこじれると転校もありえる」「決まった人しか関わらない」「合わない人がいる場合、逃げ場がない」等

問 8 の地区別割合

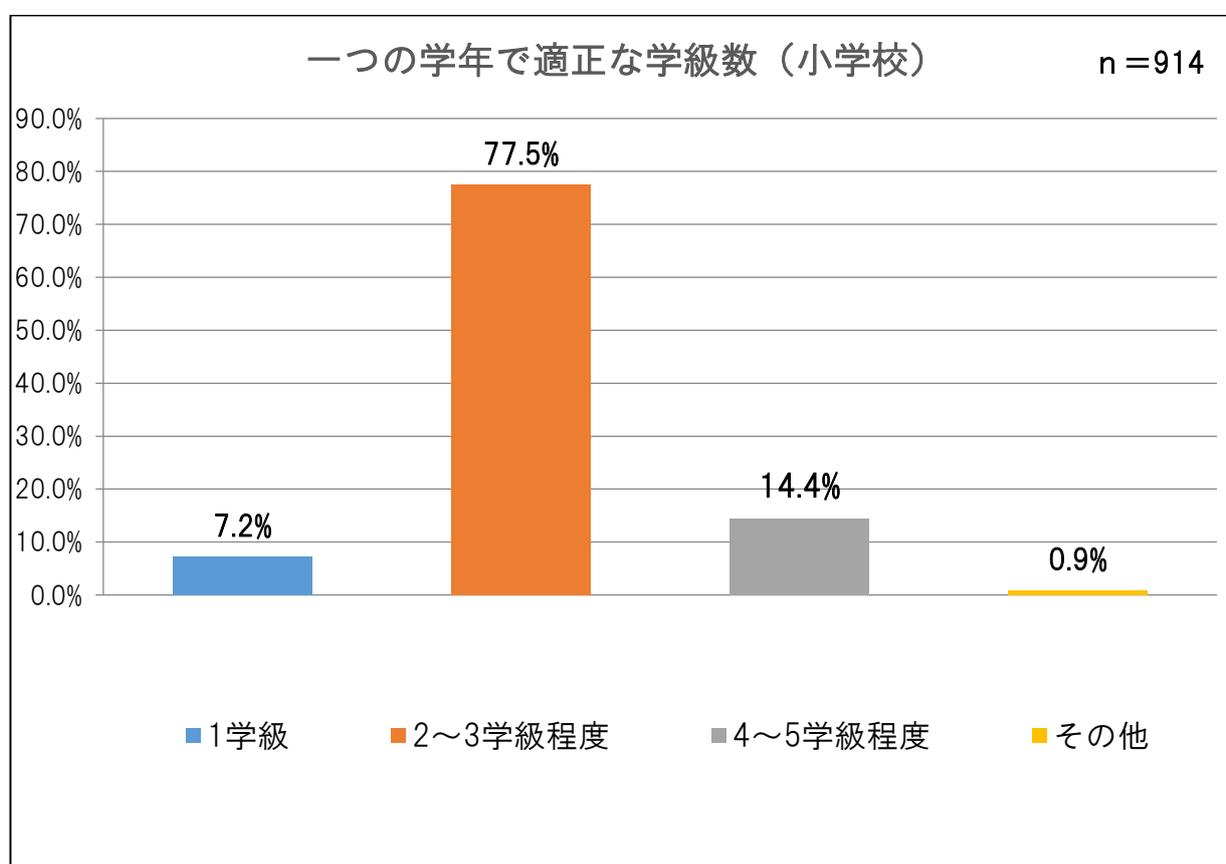


**問9【小学校】一つの学年で適正な学級数はどの程度だと考えますか（1つだけに○）**

※問5～問8の大規模校・小規模校の「よい点」「よくない点」等を踏まえてご回答下さい

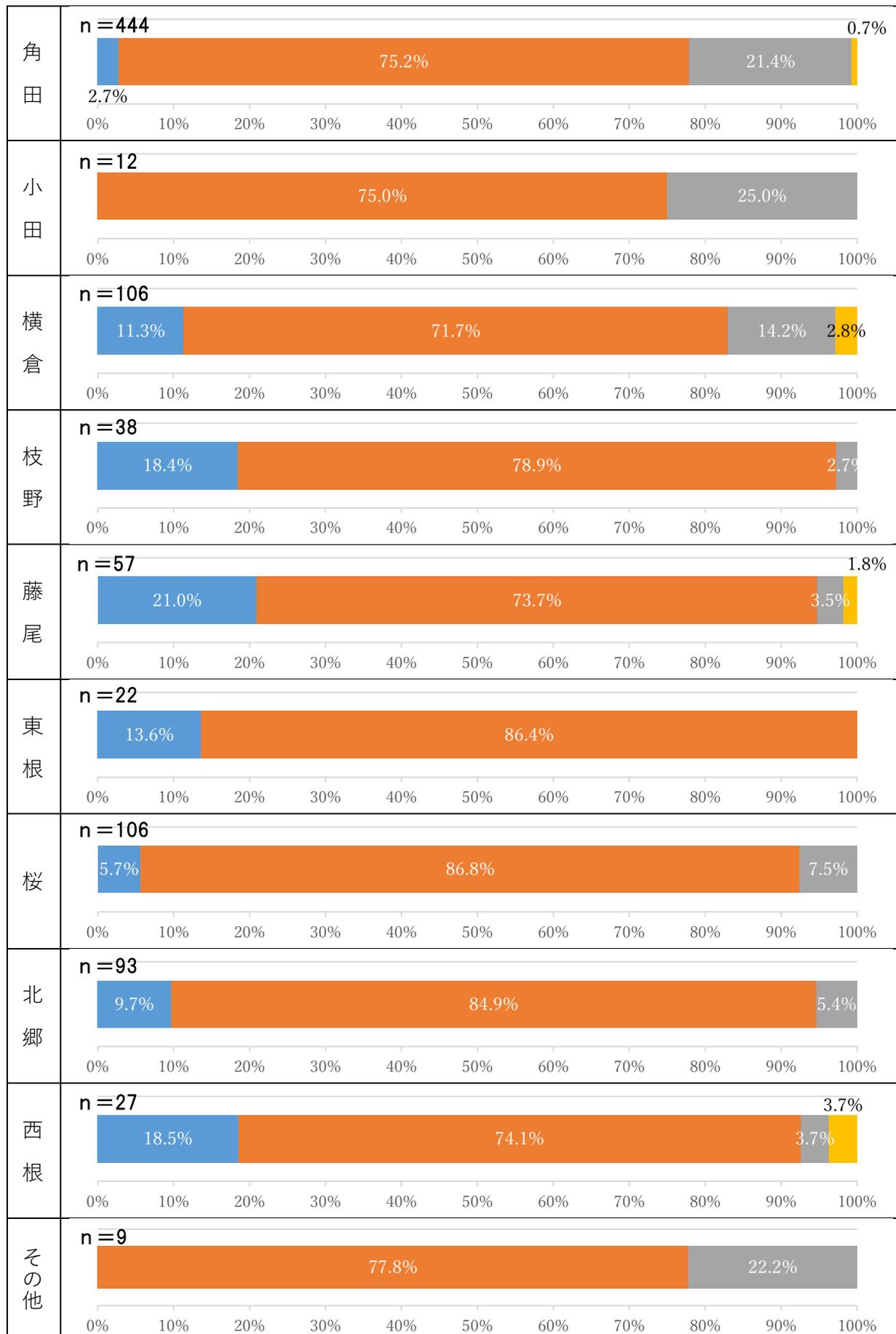
「2～3学級程度」が最も多く77.5%で、次いで「4～5学級程度」が14.4%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
1学級	66件	7.2%
2～3学級程度	708	77.5
4～5学級程度	132	14.4
その他	8	0.9
計	914	100.0



その他：「1～2学級」「2学級」「3～4学級」「クラスは多くても対応出来る先生がいれば良い」「適正かどうかは学級数に左右されない」「その他の欄に入力できる文字数が少なすぎて論外」等

問9の地区別割合

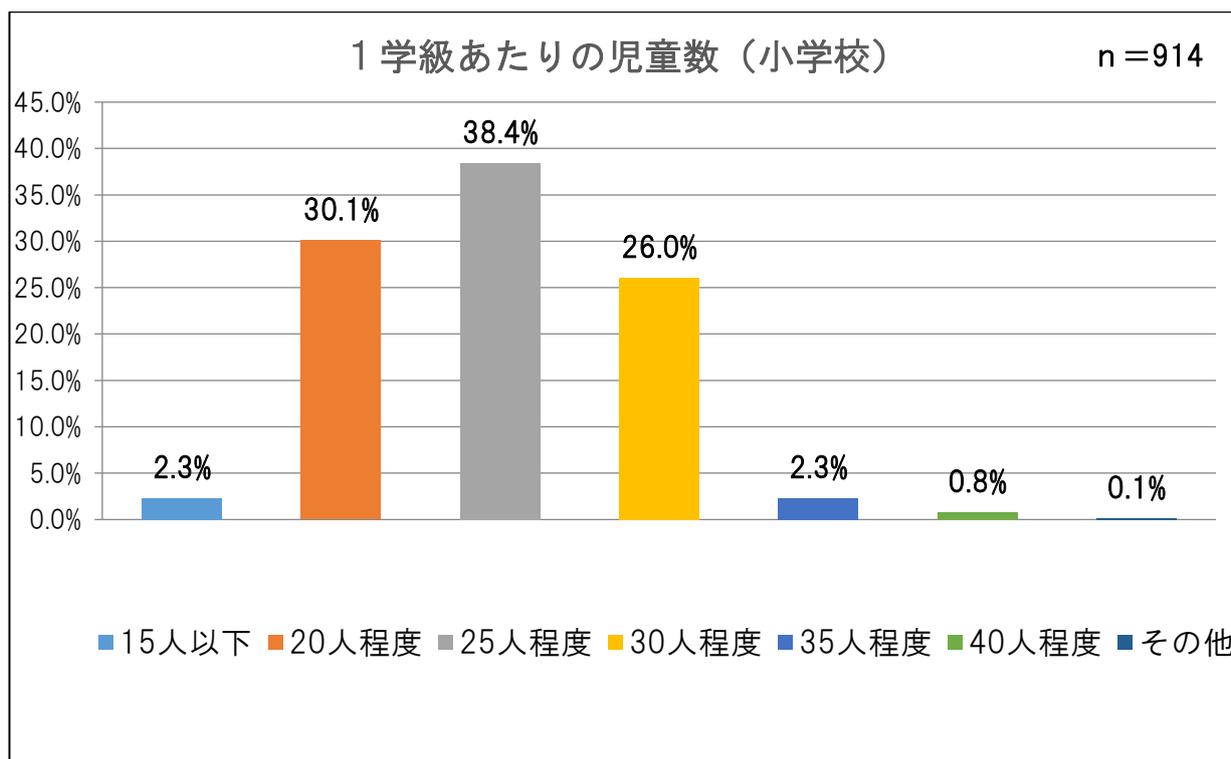


**問10【小学校】1学級あたりの児童数は何人が適当だと考えますか（1つだけに○）**

※問5～問8の大規模校・小規模校の「よい点」「よくない点」等を踏まえてご回答下さい

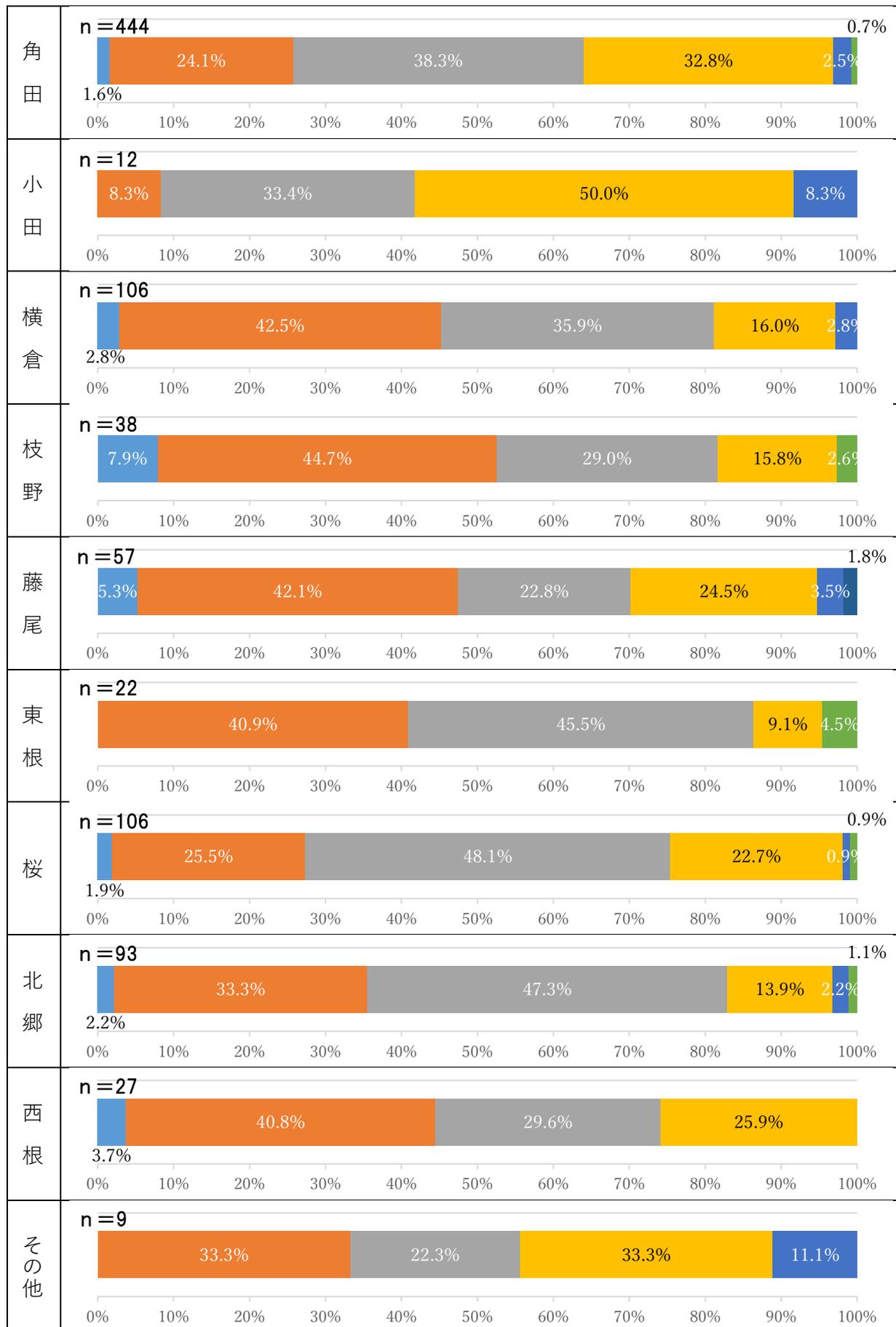
「25人程度」が最も多く38.4%で、次いで「20人程度」が30.1%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
15人以下	21件	2.3%
20人程度	275	30.1
25人程度	351	38.4
30人程度	238	26.0
35人程度	21	2.3
40人程度	7	0.8
その他	1	0.1
計	914	100.0



その他：「その他の欄に入力できる文字数が少なすぎて論外」

問10の地区別割合

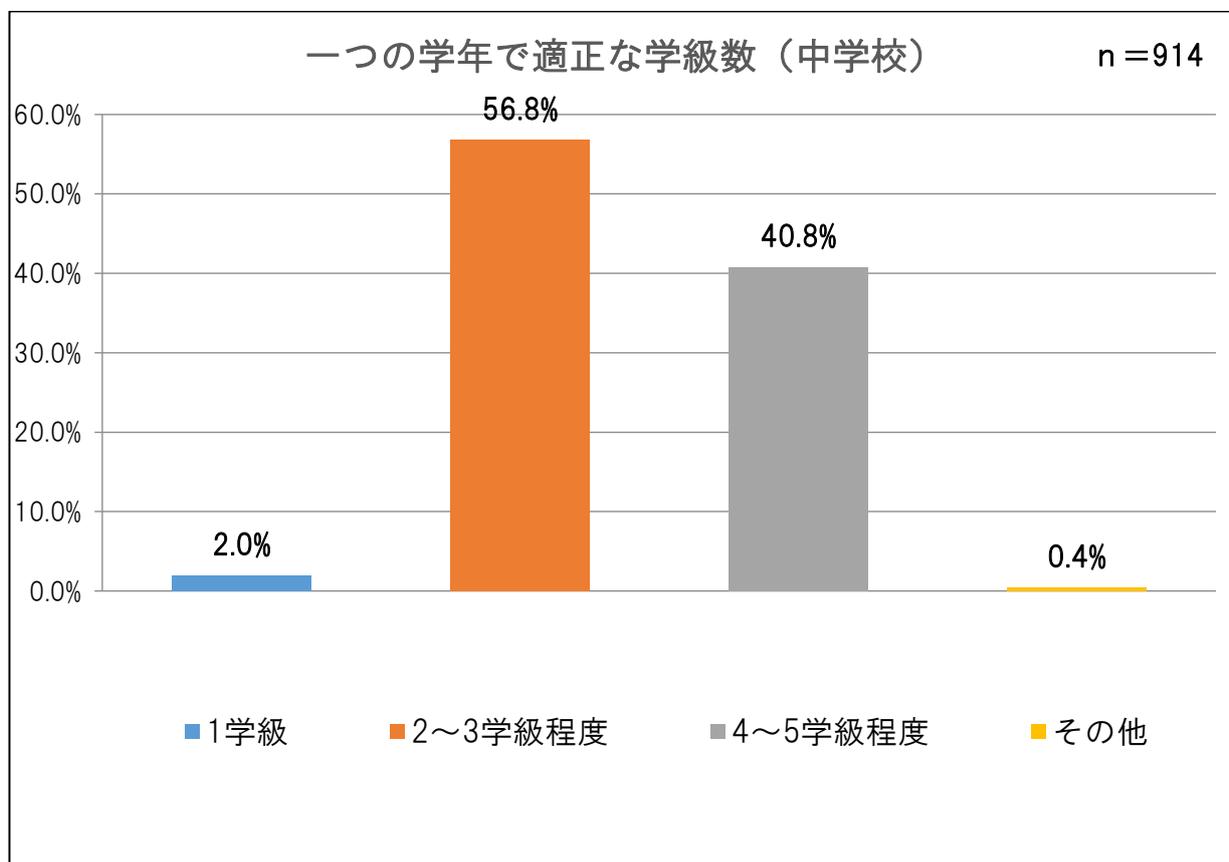


**問 1 1 【中学校】一つの学年で適正な学級数ほどの程度だと考えますか（1つだけに○）**

※問5～問8の大規模校・小規模校の「よい点」「よくない点」等を踏まえてご回答下さい

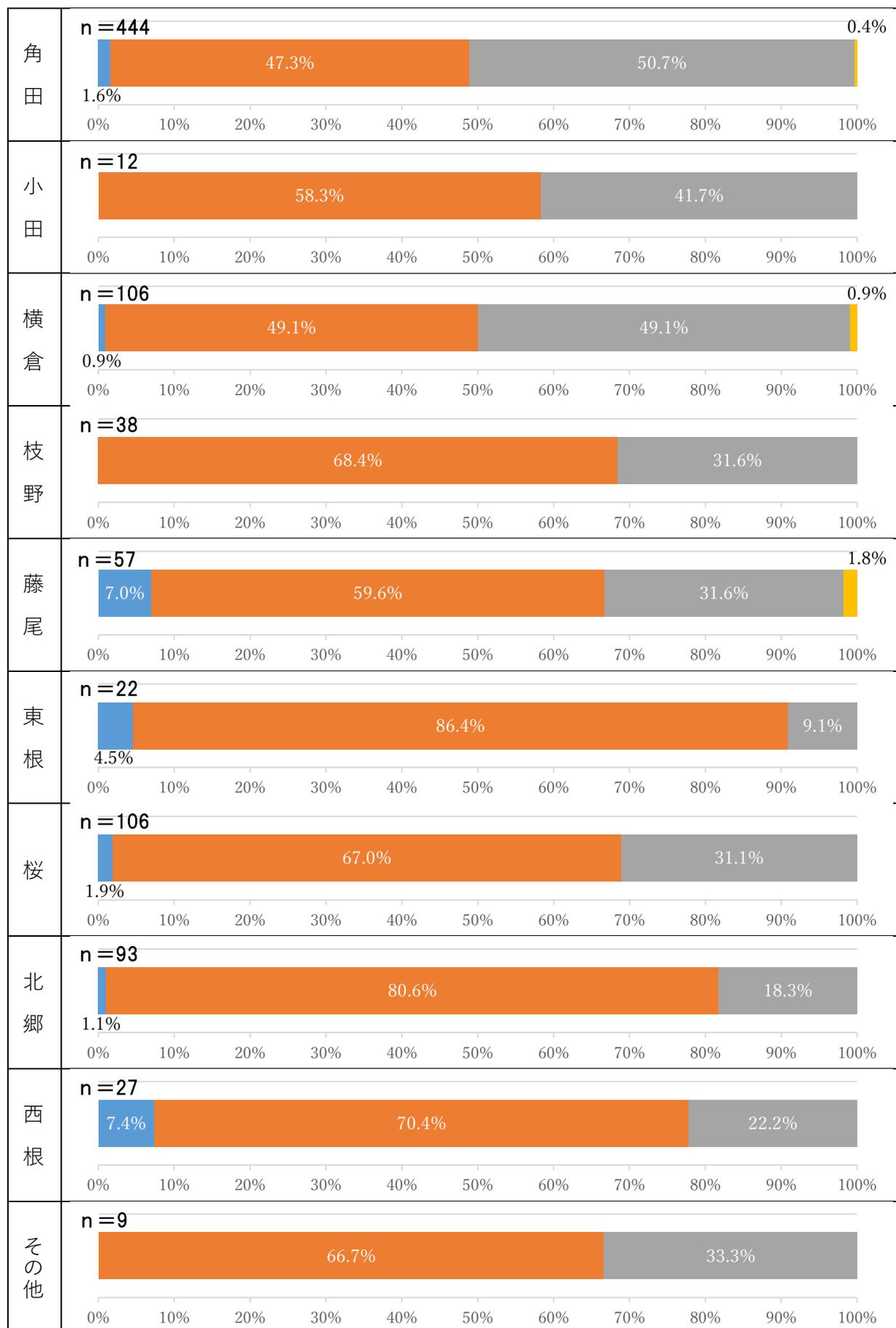
「2～3 学級程度」が最も多く 56.8%で、次いで「4～5 学級程度」が 40.8%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
1 学級	18 件	2.0%
2～3 学級程度	519	56.8
4～5 学級程度	373	40.8
その他	4	0.4
計	914	100.0



その他：「2 学級」「クラスは多くても対応出来る先生がいれば良い」「中学生の子がいないのでよくわからない」「その他の欄に入力できる文字数が少なすぎて論外」等

問 1 1 の地区別割合

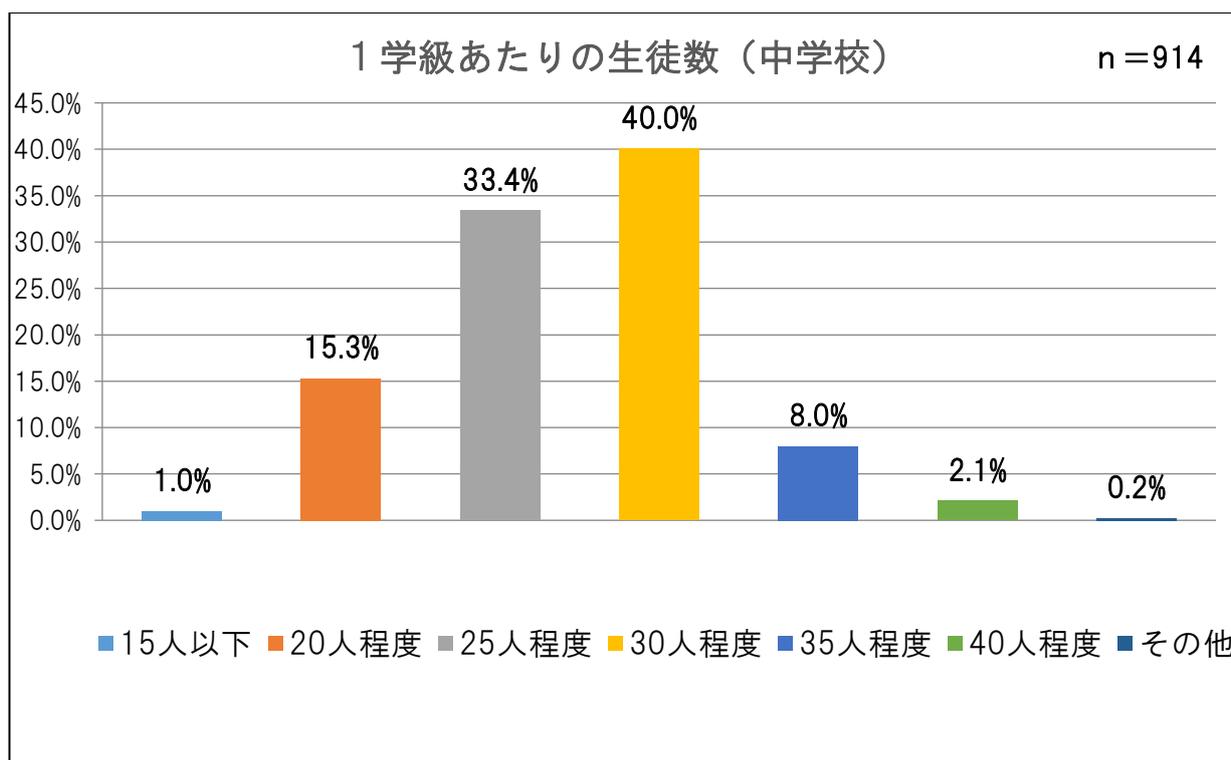


**問 1 2 【中学校】 1 学級あたりの生徒数は何人が適当だと考えますか（1つだけに○）**

※問 5 ～問 8 の大規模校・小規模校の「よい点」「よくない点」等を踏まえてご回答下さい

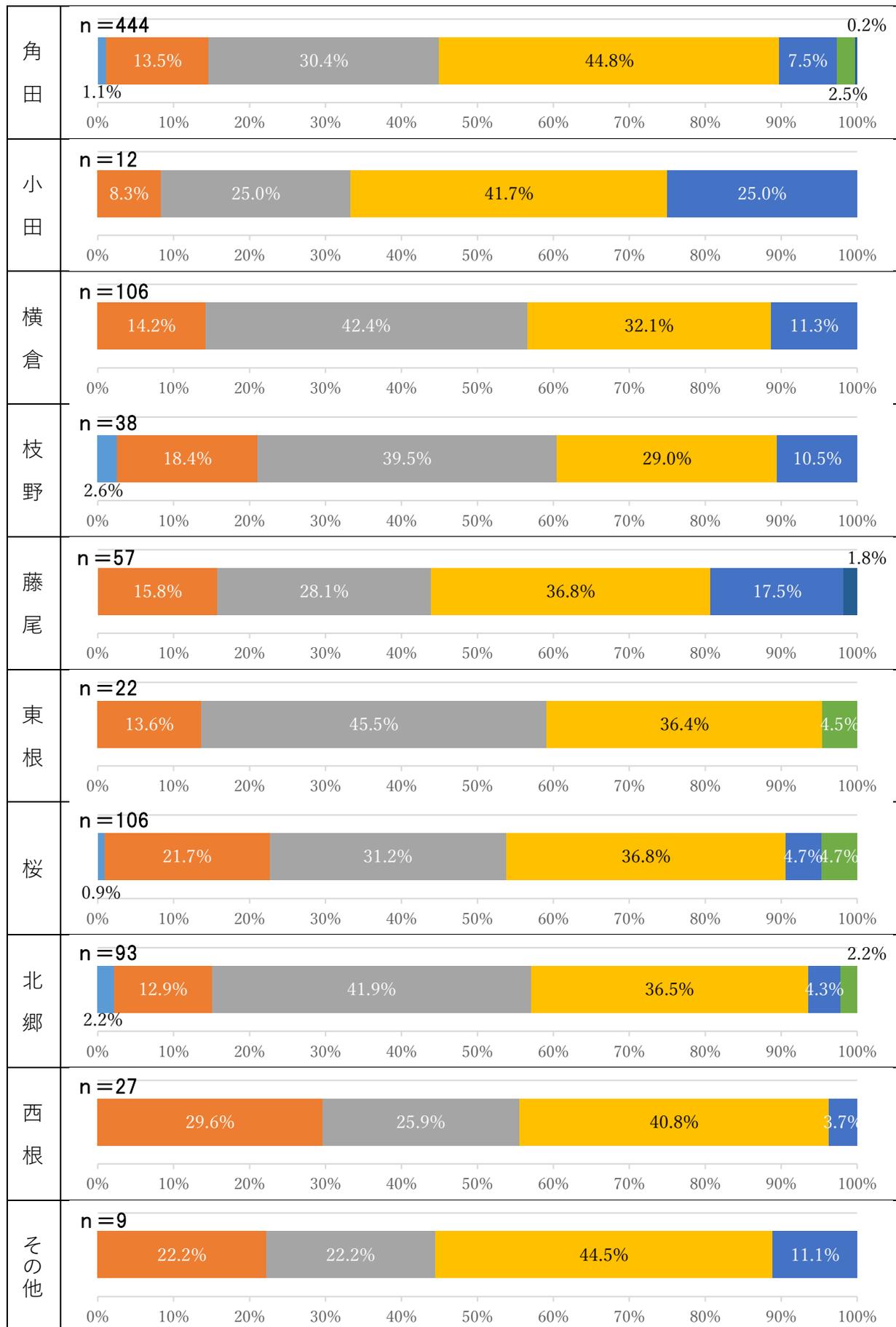
「30 人程度」が最も多く 40.0%で、次いで「25 人程度」が 33.4%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
15 人以下	9 件	1.0%
20 人程度	140	15.3
25 人程度	305	33.4
30 人程度	366	40.0
35 人程度	73	8.0
40 人程度	19	2.1
その他	2	0.2
計	914	100.0



その他：「中学生の子がいないのでよくわからない」「その他の欄に入力できる文字数が少なすぎて論外」

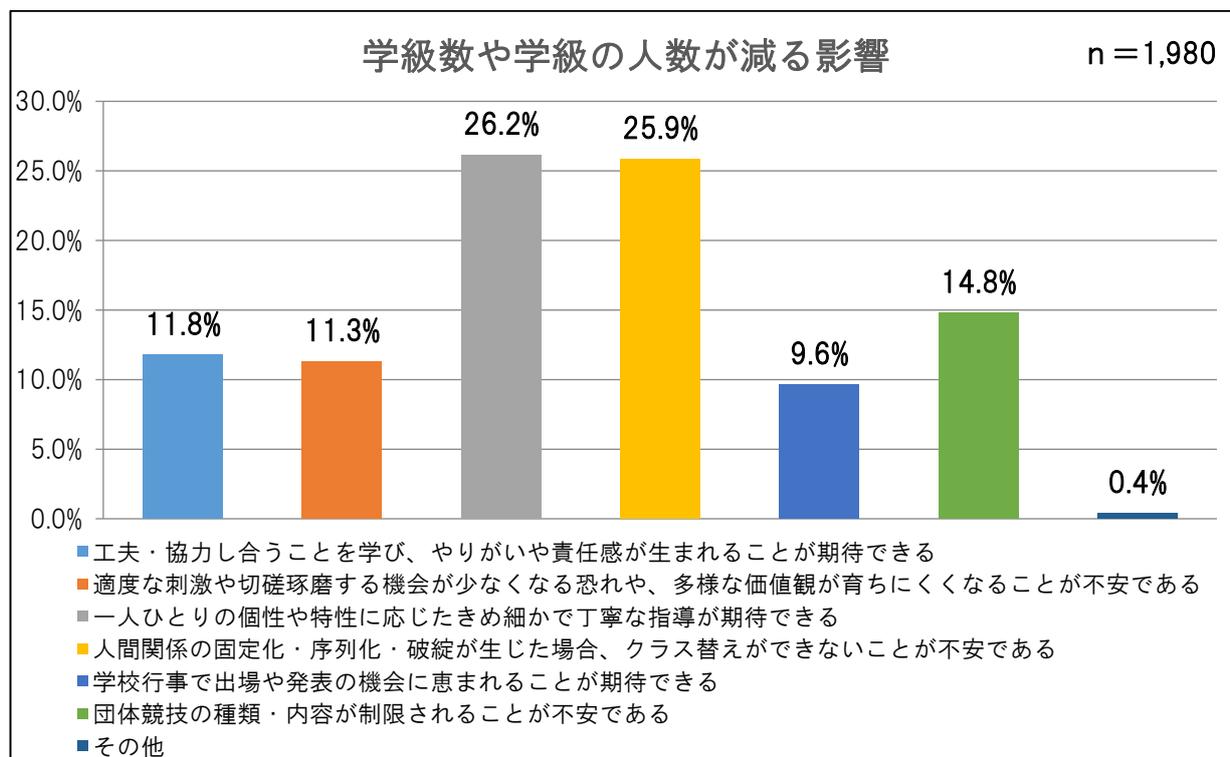
問 1 2 の地区別割合



### 問 1 3 学級数や学級の人数が減る影響はどのように考えますか（3つまで）

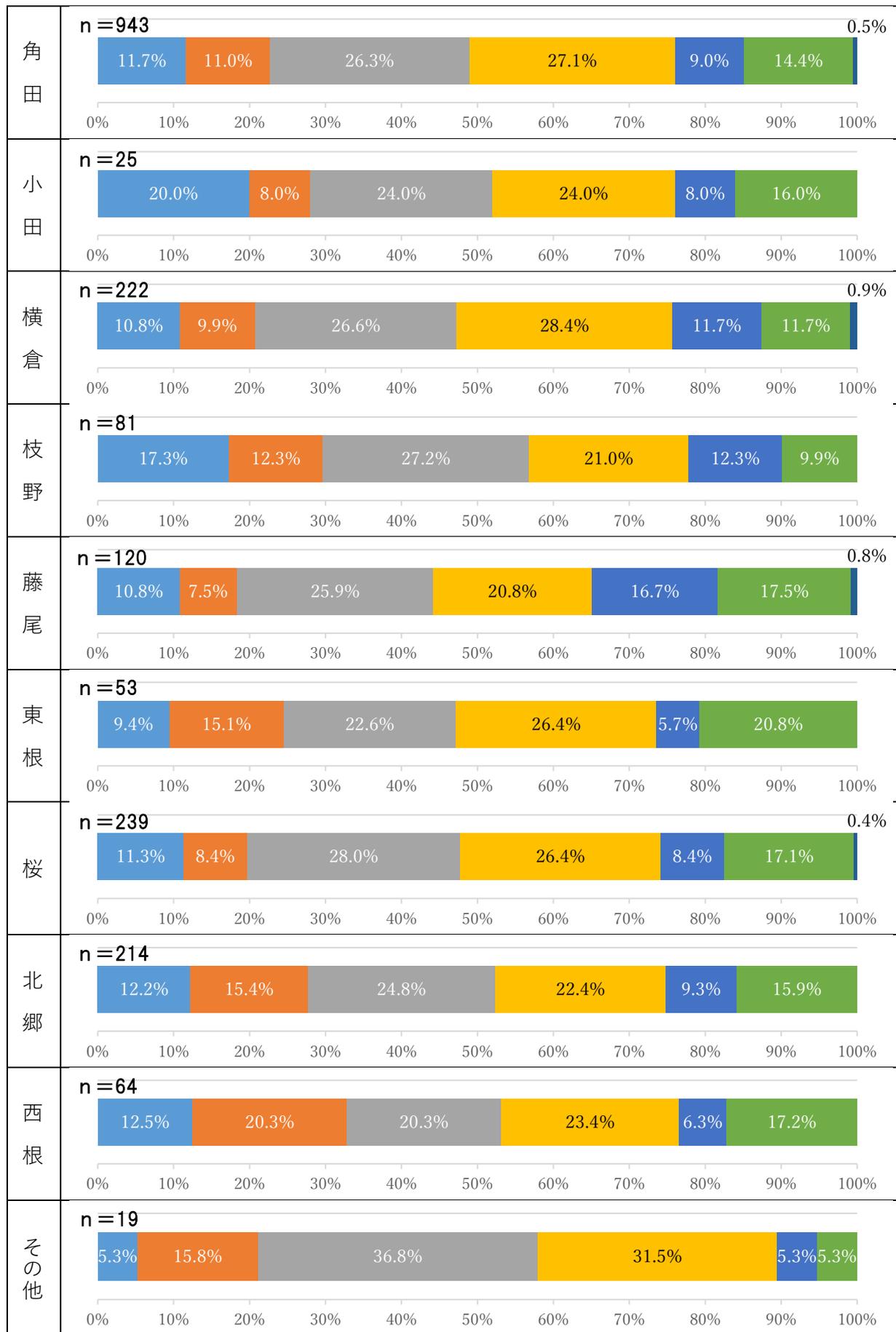
「一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細かで丁寧な指導が期待できる」が最も多く 26.2%で、次いで「人間関係の固定化・序列化・破綻が生じた場合、クラス替えができないことが不安である」が 25.9%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
工夫・協力し合うことを学び、やりがいや責任感が生まれることが期待できる	233 件	11.8%
適度な刺激や切磋琢磨する機会が少なくなる恐れや、多様な価値観が育ちにいくことが不安である	224	11.3
一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細かで丁寧な指導が期待できる	518	26.2
人間関係の固定化・序列化・破綻が生じた場合、クラス替えができないことが不安である	512	25.9
学校行事で出場や発表の機会に恵まれることが期待できる	191	9.6
団体競技の種類・内容が制限されることが不安である	293	14.8
その他	9	0.4
計	1,980	100.0



その他：「学級や人数が減る影響は大規模校であればメリット、小規模校であればデメリット」  
「多すぎても少なすぎても学校生活や学校行事等に制限が発生する」「団体競技は学校外のクラブ活動等でも可能」「少子化につれ、学級数や人数が減るのは仕方ない」「地域の衰退が起こる」「人数は多い方がよい」等

問 1 3 の地区別割合

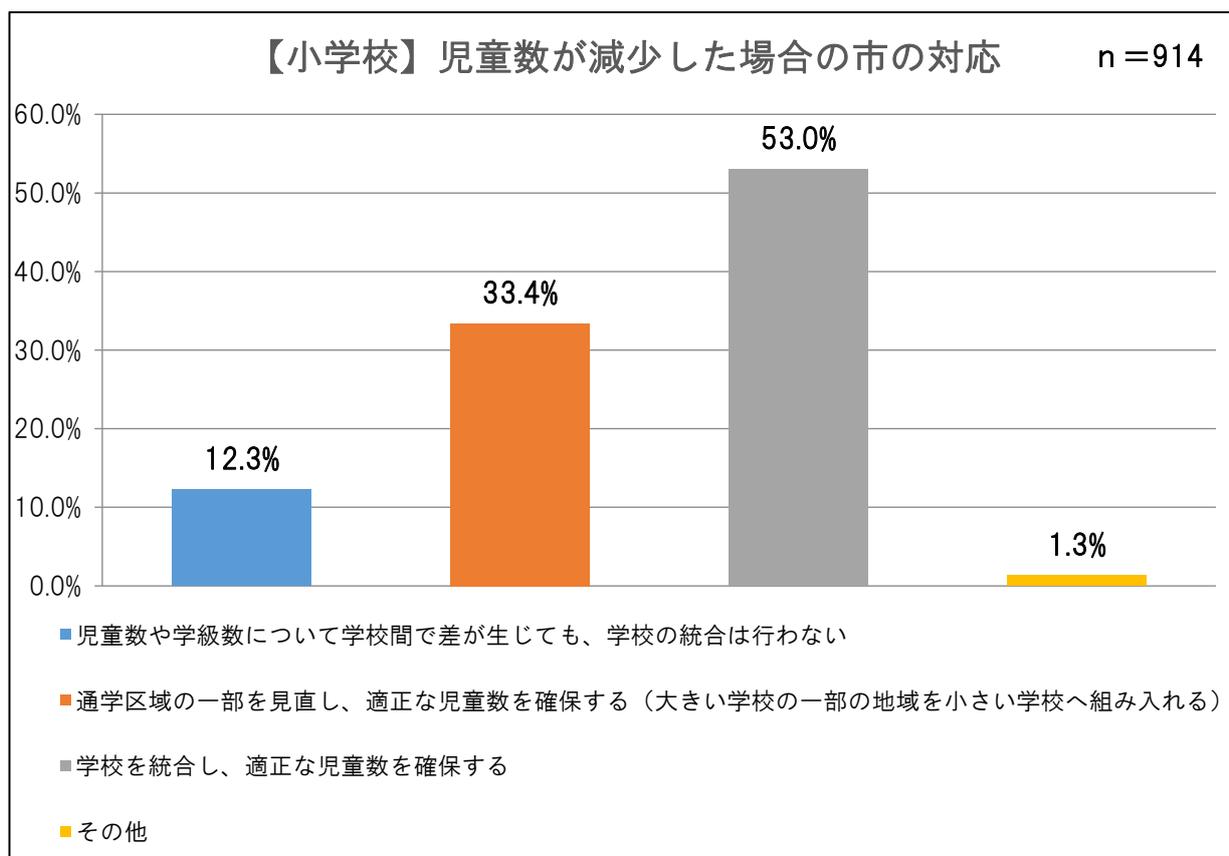


## ■適正配置(統廃合)について

問14 【小学校】 今後、小学校の児童数がさらに減少した場合、市がとるべき対応として最も適切なものはどれですか（1つだけに○）

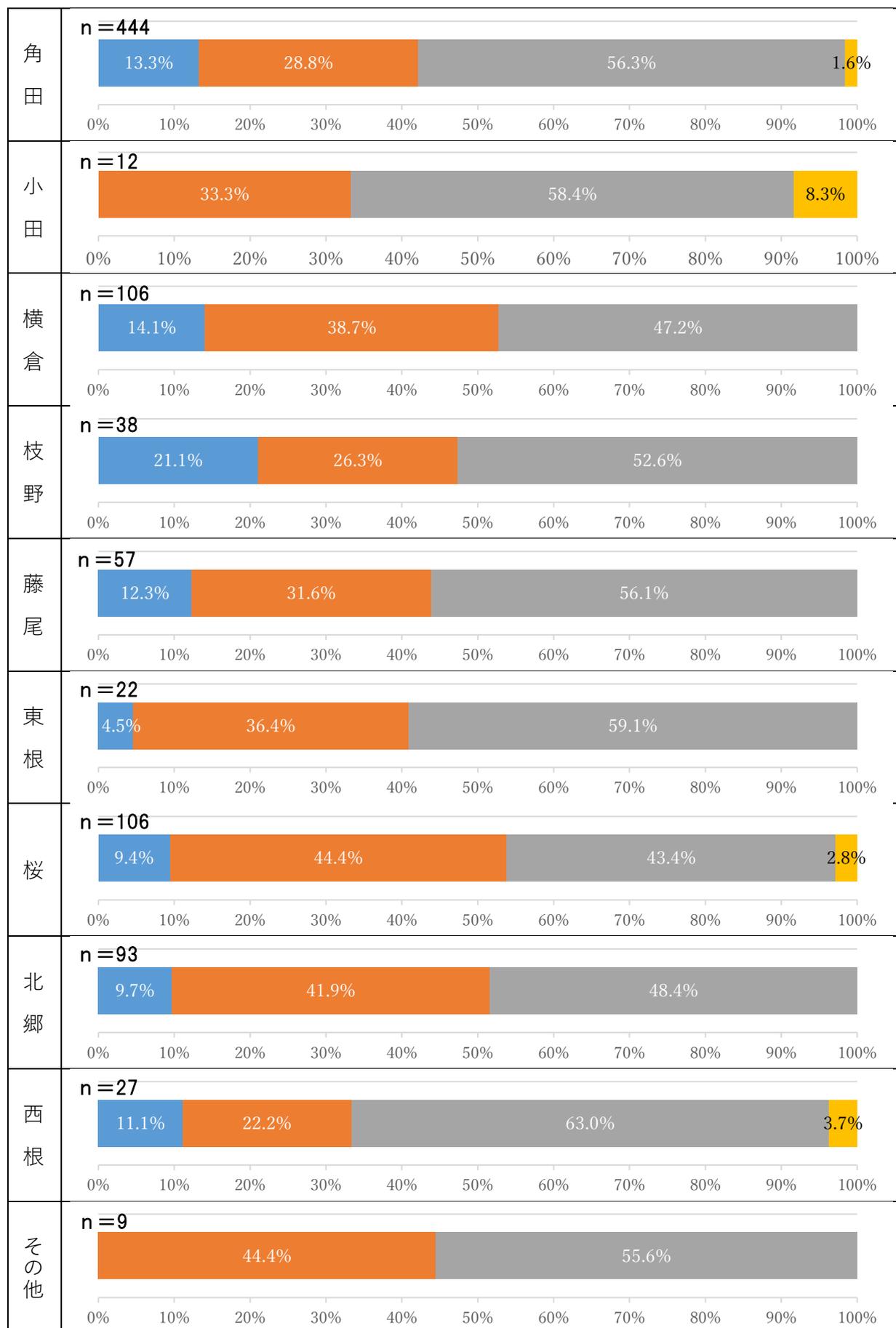
「学校を統合し、適正な児童数を確保する」が最も多く53.0%で、次いで「通学区域の一部を見直し、適正な児童数を確保する（大きい学校の一部の地域を小さい学校へ組み入れる）」が33.4%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
児童数や学級数について学校間で差が生じても、学校の統合は行わない	112 件	12.3%
通学区域の一部を見直し、適正な児童数を確保する（大きい学校の一部の地域を小さい学校へ組み入れる）	305	33.4
学校を統合し、適正な児童数を確保する	485	53.0
その他	12	1.3
計	914	100.0



その他：「中規模校、小規模校、特認校、特例校の選択肢も作るべき」「統合によって1クラスの人数が増えるのは反対」「少人数学校で何が出来るのか模索も必要」「統合以外の道も考えるべき」「学区をフリーにして学校ごとの特色を伸ばす」「統合により地域が高齢化、過疎化する」等

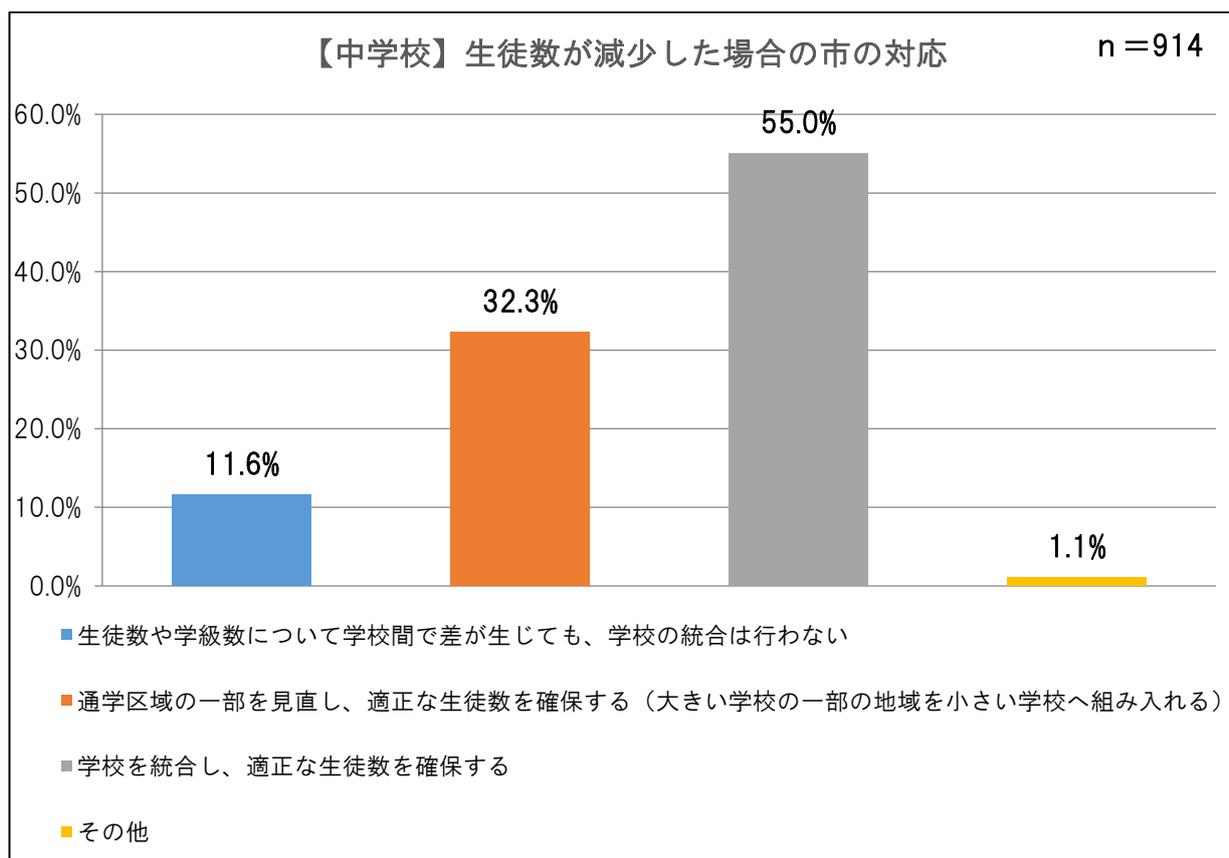
問14の地区別割合



**問 15 【中学校】 今後、中学校の生徒数がさらに減少した場合、市がとるべき対応として最も適切なものはどれですか（1つだけに○）**

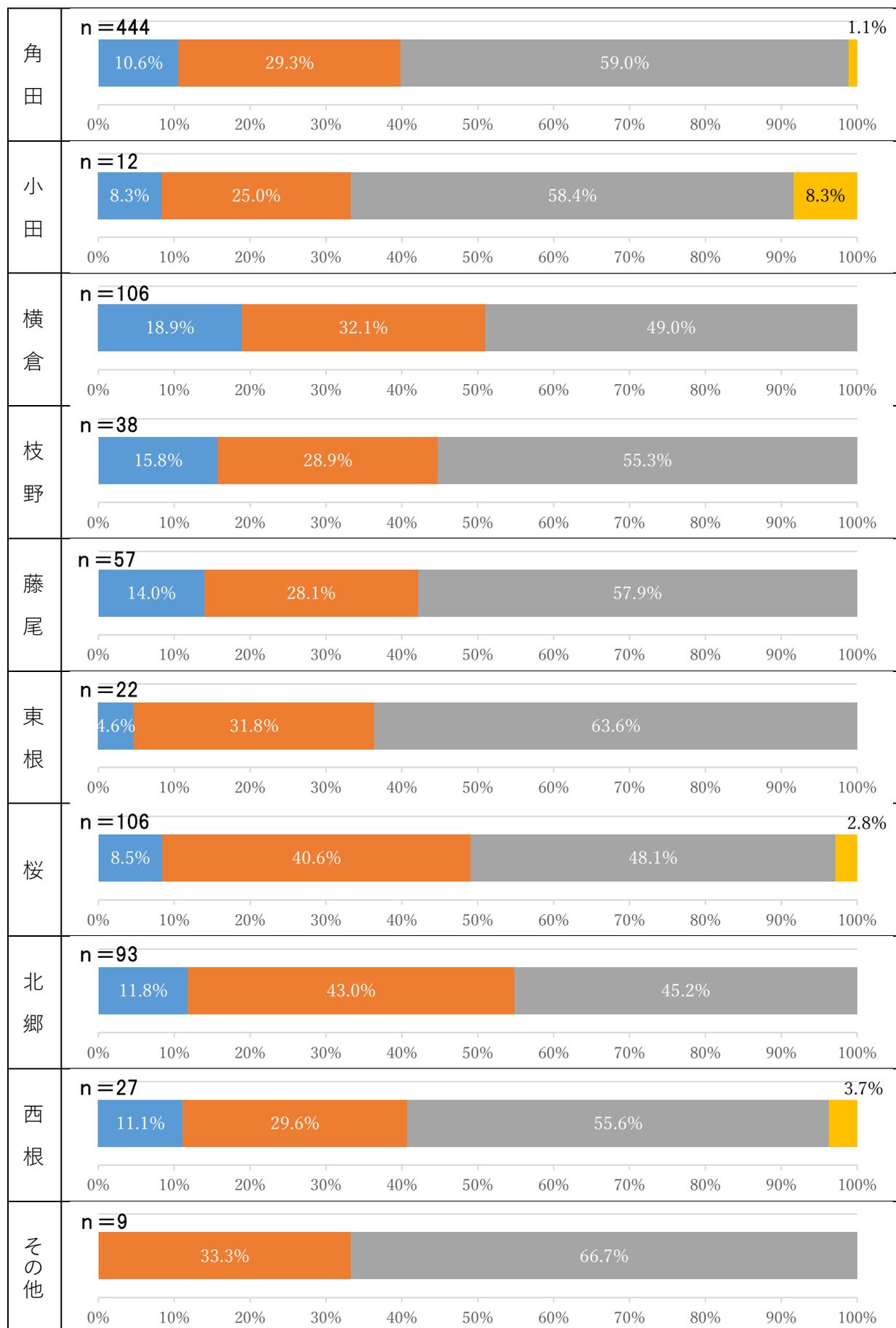
「学校を統合し、適正な生徒数を確保する」が最も多く 55.0%で、次いで「通学区域の一部を見直し、適正な生徒数を確保する（大きい学校の一部の地域を小さい学校へ組み入れる）」が 32.3%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
生徒数や学級数について学校間で差が生じても、学校の統合は行わない	106 件	11.6%
通学区域の一部を見直し、適正な生徒数を確保する（大きい学校の一部の地域を小さい学校へ組み入れる）	295	32.3
学校を統合し、適正な生徒数を確保する	503	55.0
その他	10	1.1
計	914	100.0



その他：「現在は学校を統合し中学校 1 校にするのはベストだと感じるが、今後、統廃合によって子どもたちへの悪影響等が見受けられる場合には柔軟に見直しを」「少人数学校で何が出来るのか模索も必要」「学区をフリーにして学校ごとの特色を伸ばす」「すべてを同じ形の学校にする必要はなく、学校ごとに特色を作り、希望する学校に行けるようにするべき」等

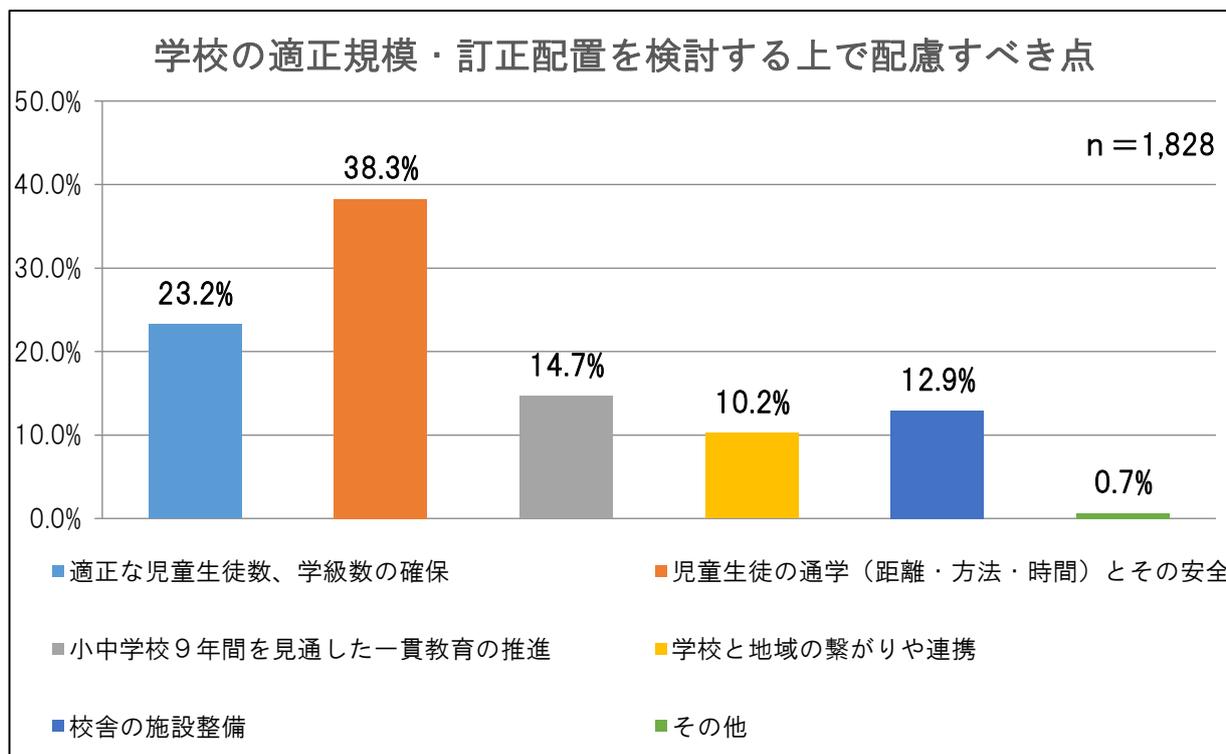
問15の地区別割合



### 問 1 6 学校の適正規模・適正配置を検討する上で配慮すべき点は何ですか（2つまで）

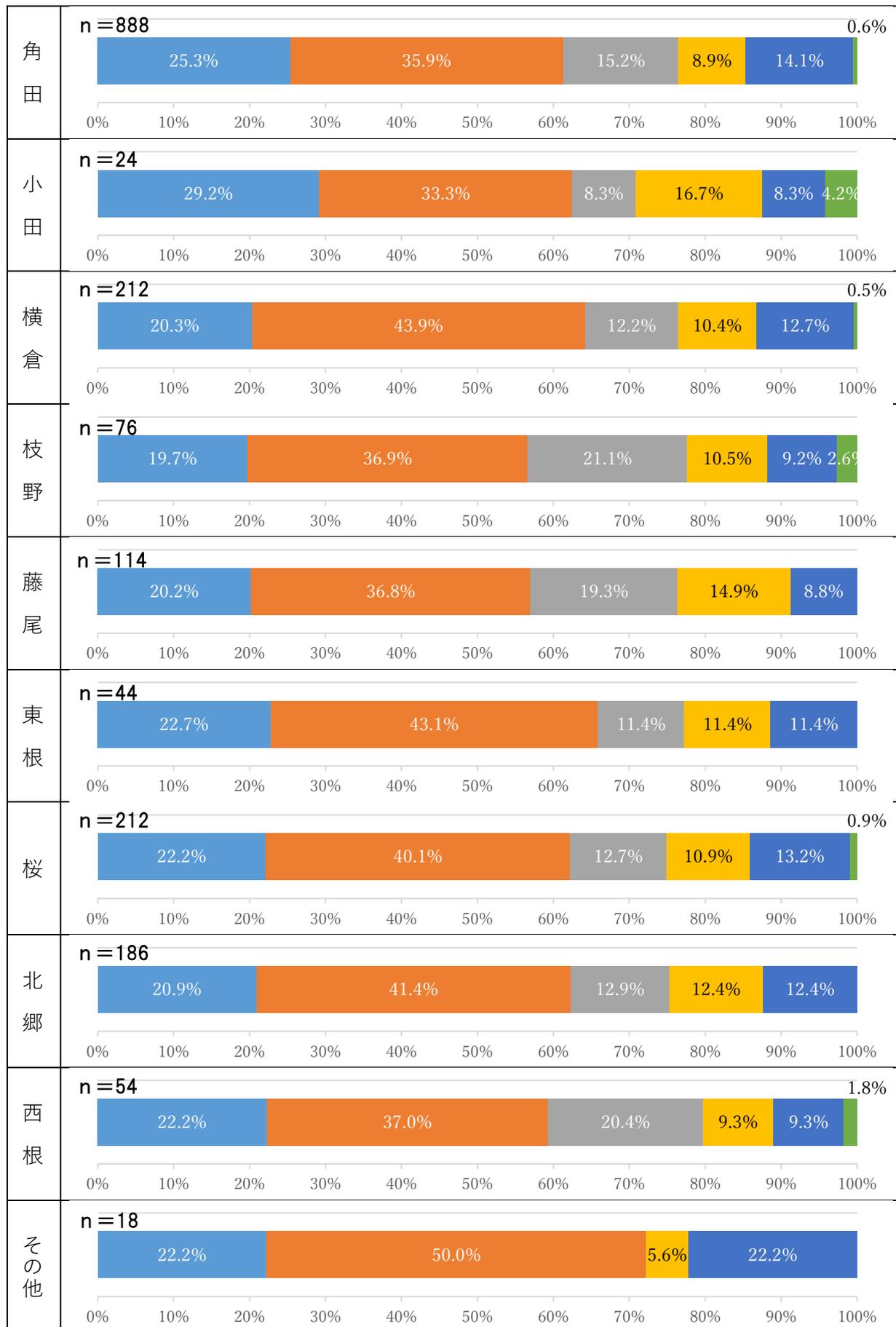
「児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」が最も多く 38.3%で、次いで「適正な児童生徒数、学級数の確保」が 23.2%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
適正な児童生徒数、学級数の確保	425 件	23.2%
児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全	700	38.3
小中学校 9 年間を見通した一貫教育の推進	268	14.7
学校と地域の繋がりや連携	187	10.2
校舎の施設整備	236	12.9
その他	12	0.7
計	1,828	100.0



その他：「先生の能力」「統合を急ぐ必要がない」「統合により中心部へ人口が集中し地域の過疎化が進む」「角田市には小学校は 1 校か 2 校、中学校は 1 校で良いので、早めに進めるべき」「子供が過ごしやすい環境」「いじめをなくすこと」「様々な規模と特色のある学校を作り、子どもたちがその中から選べるようにする」等

問 1 6 の地区別割合



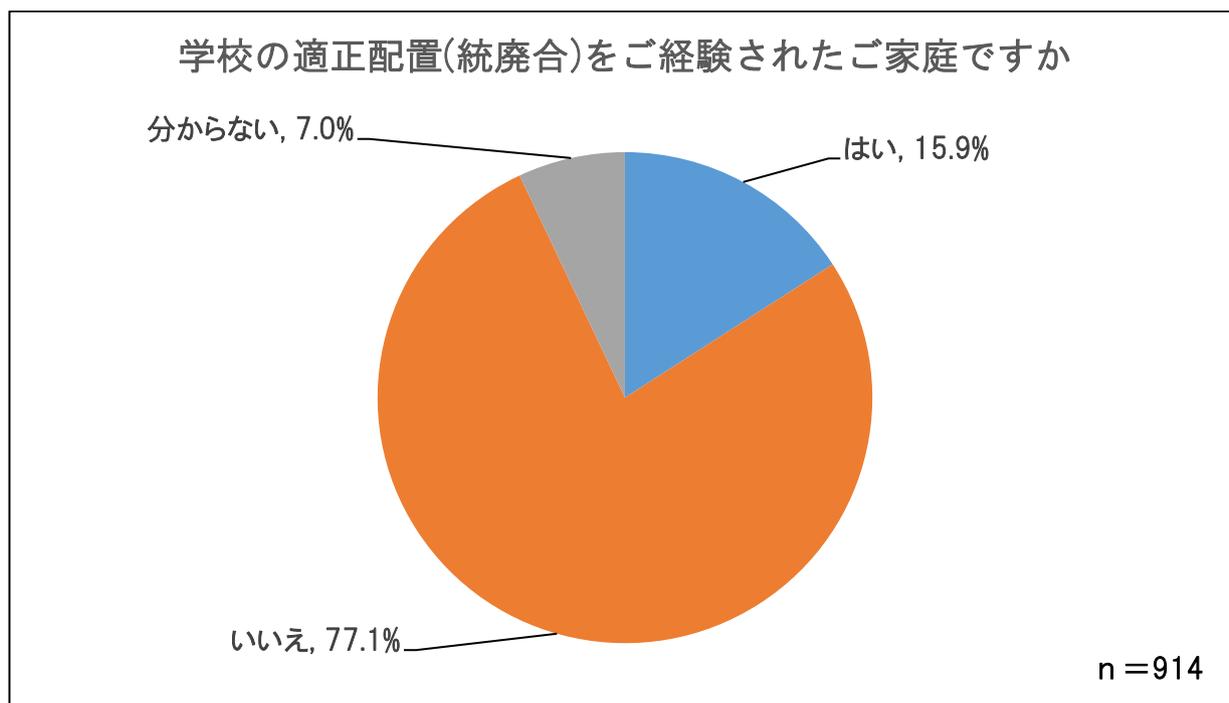
## ■東根小統合以降の適正配置(統廃合)に対する評価

問17-1 学校の適正配置(統廃合)をご経験されたご家庭ですか(1つだけに○)

※お子様が東根小・西根小・枝野小・藤尾小・金津中に通学されていたご家庭が対象

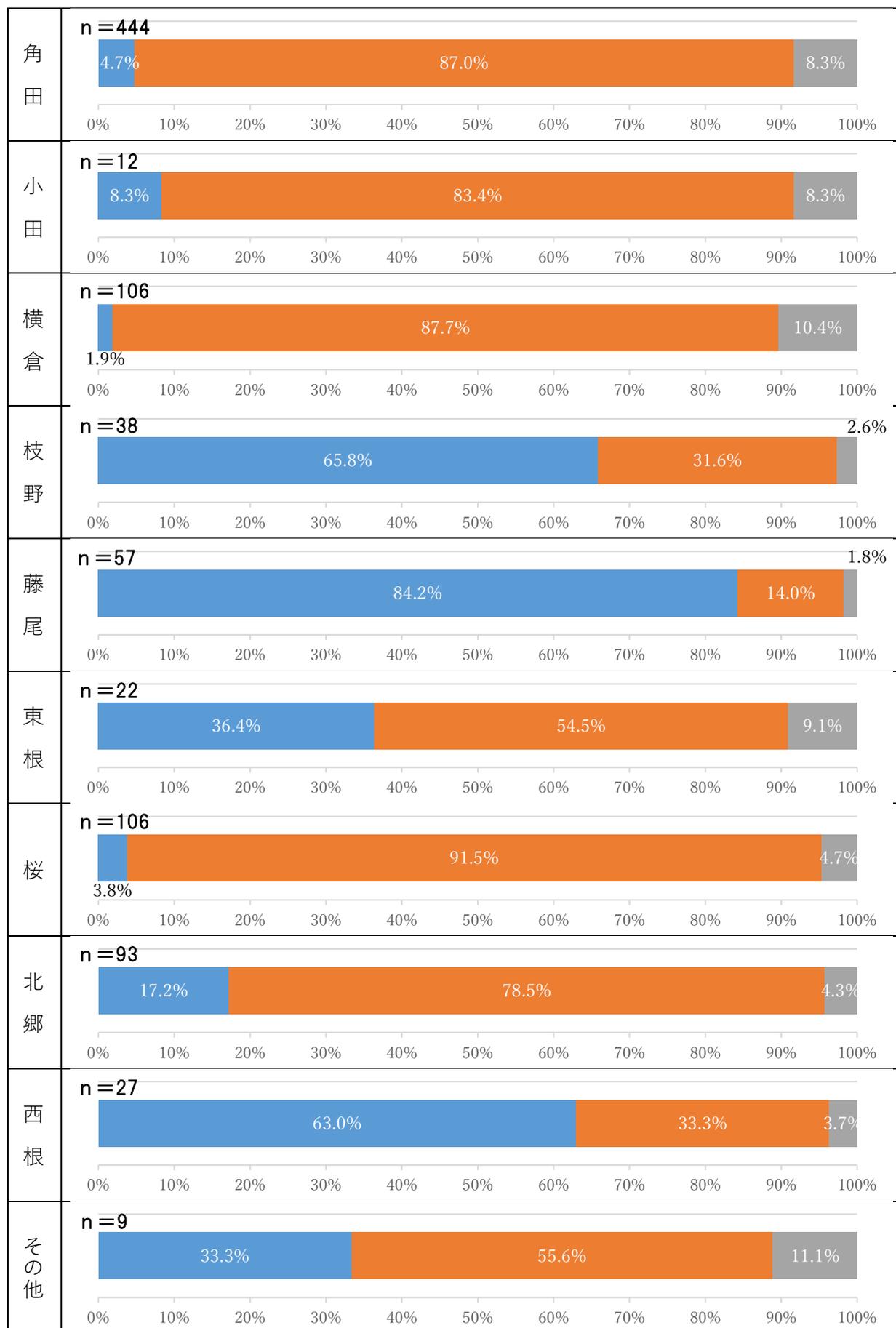
今回のアンケートにご回答いただいた914のご家庭のうち、145のご家庭(15.9%)が、学校の適正配置(統廃合)を経験したと回答しました。

選 択 肢	件 数	割 合
はい	145件	15.9%
いいえ	705	77.1
分からない	64	7.0
計	914	100.0



以下、問17-2～問17-6については、学校の適正配置(統廃合)を経験した145のご家庭に対し、追加の質問をするものです。

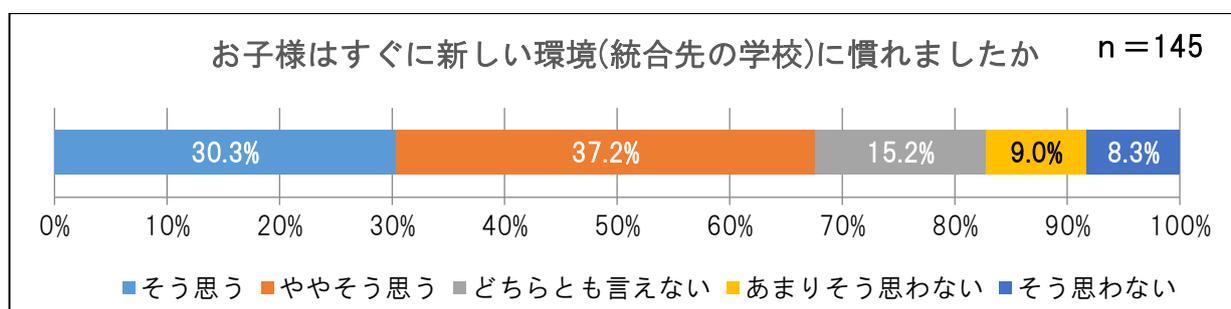
問17-1の地区別割合



**問 17-2 お子様はすぐに新しい環境(統合先の学校)に慣れましたか (1つだけに○)**

「ややそう思う」が最も多く 37.2%で、次いで「そう思う」が 30.3%となりました。

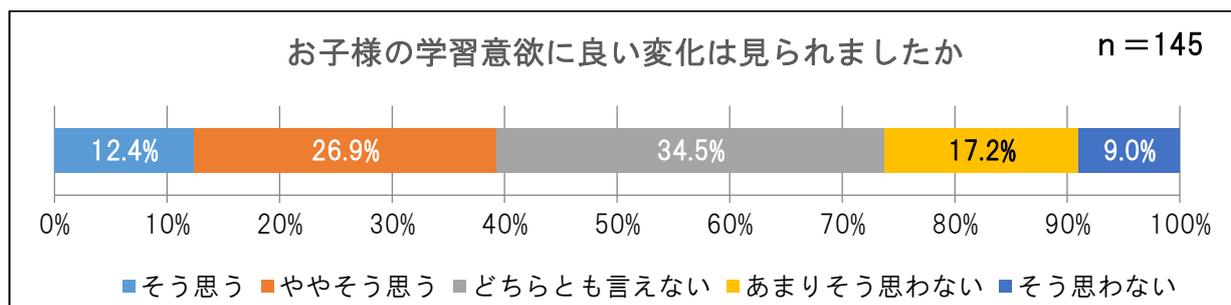
選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	44 件	30.3%
ややそう思う	54	37.2
どちらとも言えない	22	15.2
あまりそう思わない	13	9.0
そう思わない	12	8.3
計	145	100.0



**問 17-3 お子様の学習意欲に良い変化は見られましたか (1つだけに○)**

「どちらとも言えない」が最も多く 34.5%で、次いで「ややそう思う」が 26.9%となりました。

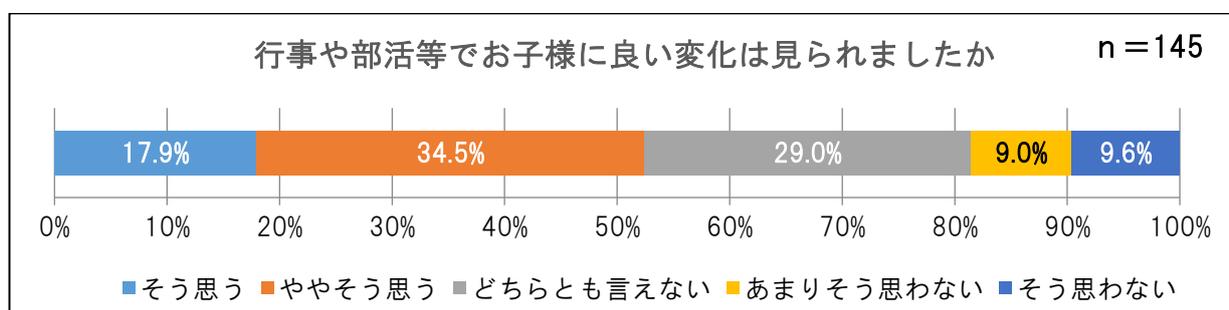
選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	18 件	12.4%
ややそう思う	39	26.9
どちらとも言えない	50	34.5
あまりそう思わない	25	17.2
そう思わない	13	9.0
計	145	100.0



**問 17-4 行事や部活等においてお子様に良い変化はありましたか（1つだけに○）**

「ややそう思う」が最も多く 34.5%で、ついで「どちらとも言えない」が 29.0%となりました。

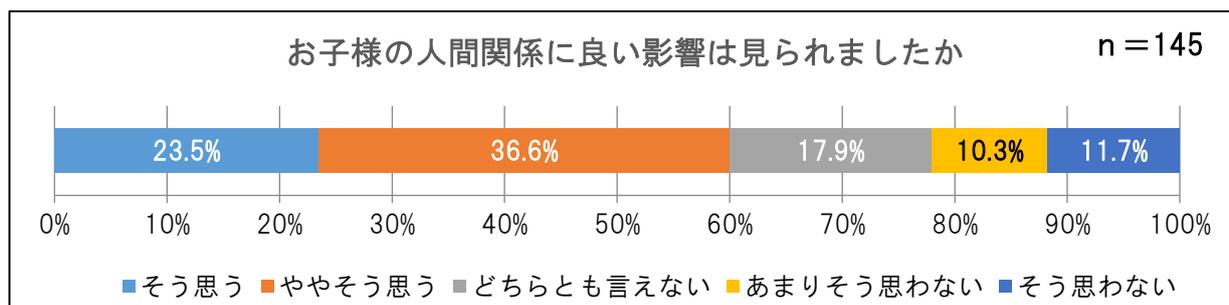
選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	26 件	17.9%
ややそう思う	50	34.5
どちらとも言えない	42	29.0
あまりそう思わない	13	9.0
そう思わない	14	9.6
計	145	100.0



**問 17-5 お子様の人間関係に良い影響はありましたか（1つだけに○）**

「ややそう思う」が最も多く 36.6%で、ついで「そう思う」が 23.5%となりました。

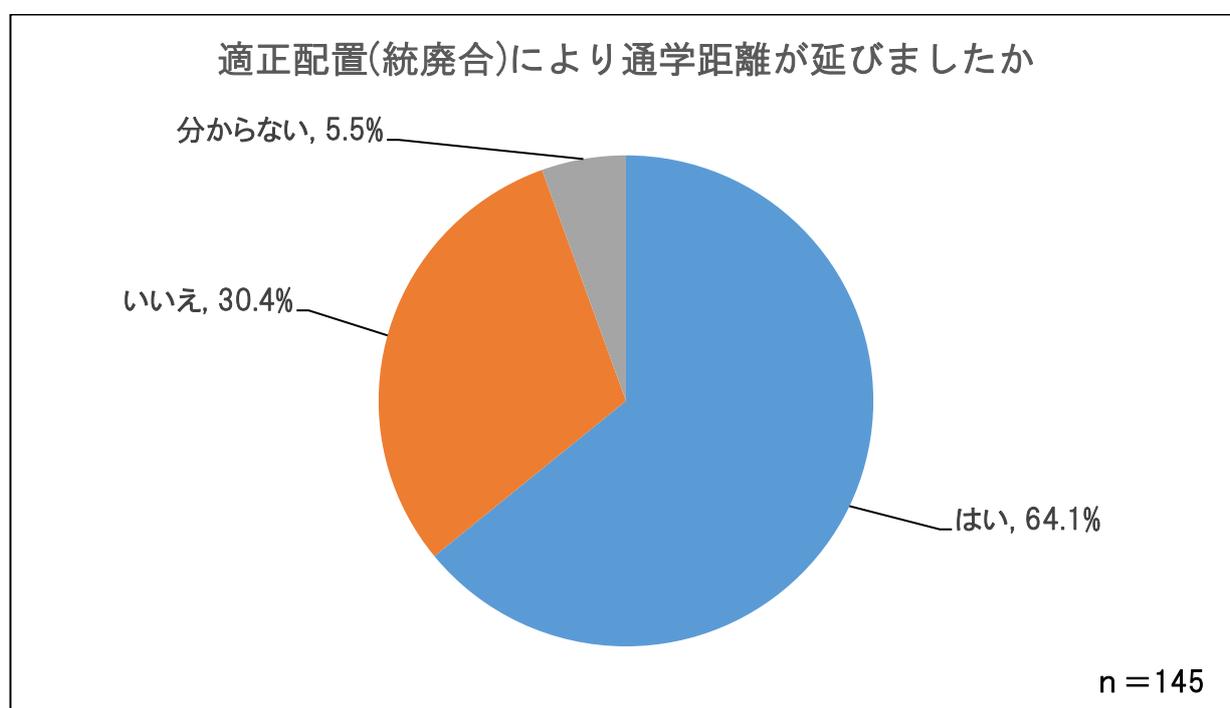
選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	34 件	23.5%
ややそう思う	53	36.6
どちらとも言えない	26	17.9
あまりそう思わない	15	10.3
そう思わない	17	11.7
計	145	100.0



### 問 17 - 6 学校の適正配置(統廃合)によりお子様の通学距離が延びましたか(1つだけに○)

学校の適正配置(統廃合)を経験したと回答した 145 のご家庭のうち、93 のご家庭 (64.1%) が、お子様の通学距離が延びたと回答しました。

選 択 肢	件 数	割 合
はい	93 件	64.1%
いいえ	44	30.4
分からない	8	5.5
計	145	100.0

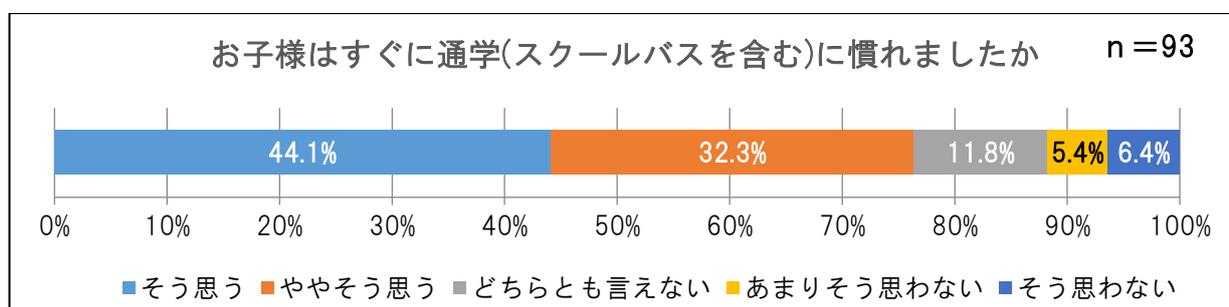


以下、問 17 - 7 ~ 問 17 - 8 については、学校の適正配置(統廃合)を経験した 145 のご家庭のうち、お子様の通学距離が延びたと回答した 93 のご家庭に対し、追加の質問をするものです。

**問 17-7 お子様はすぐに通学(スクールバス含む)に慣れましたか (1つだけに○)**

「そう思う」が最も多く 44.1%で、次いで「ややそう思う」が 32.3%となりました。

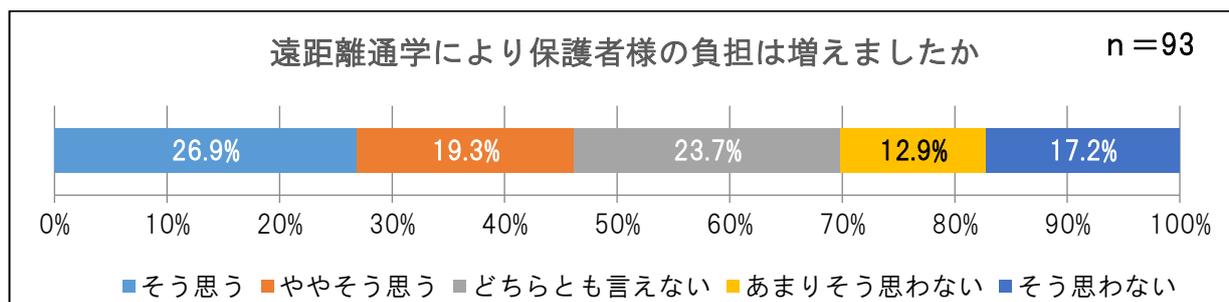
選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	41 件	44.1%
ややそう思う	30	32.3
どちらとも言えない	11	11.8
あまりそう思わない	5	5.4
そう思わない	6	6.4
計	93	100.0



**問 17-8 通学距離が延びたことで保護者様の負担は増えましたか (1つだけに○)**

「そう思う」が最も多く 26.9%で、次いで「どちらとも言えない」が 23.7%となりました。

選 択 肢	件 数	割 合
そう思う	25 件	26.9%
ややそう思う	18	19.3
どちらとも言えない	22	23.7
あまりそう思わない	12	12.9
そう思わない	16	17.2
計	93	100.0



## ■自由意見

### 問18 学校・教育委員会・市に対するご意見等をお聞かせください（任意）

※現在通学している学校の問題点や課題、今後学校の適正規模・適正配置を検討するうえで  
のご意見、その他、学校・教育委員会・市に対するご意見等、何でも結構ですので、お聞  
かせください（自由意見）

問18の自由意見につきましては、257人から回答がありました。1人で複数の意見を記入された方もいらっしゃいましたので、件数は回答者数より多くなっております。主な意見の要旨については次のとおりです。

主な意見の要旨	件数	割合
適正規模・適正配置を進めることに賛成のご意見	49件	13.9%
適正規模・適正配置を進めることに反対のご意見	27	7.7
適正規模・適正配置の進め方等に対するご意見	43	12.2
通学路の安全対策等に関するご意見	15	4.3
P T Aの見直し・廃止等に関するご意見	15	4.3
学校施設の老朽化解消・トイレ改修等に関するご意見	15	4.3
学区の見直し・撤廃、学校選択制等に関するご意見	14	4.0
スクールバスの運行基準の緩和等に関するご意見	10	2.8
いじめ・不登校問題等に関するご意見	9	2.5
送迎用駐車場の確保等に関するご意見	7	2.0
児童生徒の学力向上等に関するご意見	7	2.0
部活動に関するご意見	7	2.0
学校・教員・学校教育等に対するご意見	50	14.2
その他市・教育委員会等に対するご意見	84	23.8
計	352	100.0